2019 (令和元) 年度

事業報告書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

学校法人 宮城学院

目 次

Ι.	学校法人の概要	1-
1.	. 法人の事業目的	1 -
2.	. 設置する学校・学部・学科等	1 -
3.	. 宮城学院の沿革	1 -
4.	. 組織	3 -
5.	. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数	4 -
6.	. 役員の概要	5 -
7.	. 評議員の概要	6 -
8.	. 教職員の概要	7 -
9.	. 所在地一覧	8-
п.	事業の概要	9 -
1.	. 学院全体に関わる事業	9 -
((1) 建学の精神に基づく教育の充実	9 -
((2) 中高活性化に向けて	9-
((3) 健全な財政基盤の確立	9 -
((4) 管理運営体制の強化	9 -
((5) 学術情報館の建設	10 -
((6) 施設設備等の整備	10 -
((7) 募金事業の展開	10 -
((8) 奨学金制度等の充実	10 -
((9) 働き方改革の推進	11 -
((10) 危機管理体制の充実	11 -
2.	. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項	11 -
((1) 大学における宗教教育諸活動	12 -
((2) 教育・研究活動の充実	13 -
((3) 教育内容の充実に向けて	13 -
((4) 学生支援の充実	14 -
((5) 学生募集	16 -
((6) 社会連携(MG-LAC 活動を含む)	17 -
((7) 国際交流	17 -
((8) 生涯学習	17 -
((9) 大学院	17 -
((10) 大学後援会活動及び保護者等との連携	18 -
3.	. 宮城学院中学校高等学校に関する事項	18 -
((1) 教育計画全般	18 -
((2) キリスト教教育活動	19 -
((3) 学習指導	19 -
((4) グローバル・スタディーズ	- 20 -

(5) 海外研修・国際交流・国際寮	20 -
(6) 音楽教育	20 -
(7)生徒会指導、生活指導	21 -
(8) 進路指導	21 -
(9) 高等学校のコース再編と入試広報	22 -
(10) スクールバス	22 -
(11) その他	22 -
4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項	22 -
5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項	24 -
6. キリスト教センターに関する事項	25 -
7. 資料室に関する事項	- 26 -
Ⅲ. 財務の概要	27 -
IV. 資料	35 -
1. 理事会、評議員会の開催状況	35 -
1. 理事会、評議員会の開催状況(1) 理事会の開催状況	35 - 35 -
 理事会、評議員会の開催状況 (1) 理事会の開催状況 (2) 常任理事会の開催状況 	35 - 35 - 36 -
 理事会、評議員会の開催状況 (1) 理事会の開催状況 (2) 常任理事会の開催状況 (3) 評議員会の開催状況 	- 35 - - 35 - - 36 - - 41 -
 理事会、評議員会の開催状況 (1) 理事会の開催状況 (2) 常任理事会の開催状況 (3) 評議員会の開催状況 2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等 	- 35 - - 35 - - 36 - 41 -
 理事会、評議員会の開催状況	- 35 35 36 41 41 41 41 41 41 41 41 41 41
 理事会、評議員会の開催状況	- 35 35 36 41 41 43 -
 理事会、評議員会の開催状況 (1) 理事会の開催状況 (2) 常任理事会の開催状況 (3) 評議員会の開催状況 2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等 (1) 法人(理事会・評議員会を除く) (2) 大学院・大学 (3) 中学校高等学校 	- 35 35 36 41 41 43 44 44 44 44 44 44 44
 理事会、評議員会の開催状況	- 35 35 36 41 41 43 44 44 44 44 44 44 44
 理事会、評議員会の開催状況 (1) 理事会の開催状況 (2) 常任理事会の開催状況 (3) 評議員会の開催状況 2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等 (1) 法人(理事会・評議員会を除く) (2) 大学院・大学 (3) 中学校高等学校 	- 35 35 35 36 41 41 43 44 45
1. 理事会、評議員会の開催状況 (1) 理事会の開催状況 (2) 常任理事会の開催状況 (3) 評議員会の開催状況 2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等 (1) 法人(理事会・評議員会を除く) (2) 大学院・大学 (3) 中学校高等学校 (4) 大学附属認定こども園「森のこども園」	- 35
1. 理事会、評議員会の開催状況	- 35
 (1) 理事会の開催状況 (2) 常任理事会の開催状況 (3) 評議員会の開催状況 2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等 (1) 法人(理事会・評議員会を除く) (2) 大学院・大学 (3) 中学校高等学校 (4) 大学附属認定こども園「森のこども園」 3. 補助金の状況 4. 入学志願者、合格者、入学者数 	- 35 35 35 36 41 41 43 44 45

I. 学校法人の概要

1. 法人の事業目的

寄附行為第3条において、「学校法人宮城学院は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及 び学校教育法に従い、女子及び幼児に学校教育を行うことを目的とする。」と定め、大学院、大学、 高等学校、中学校、認定こども園及びその他の教育研究施設を設置し、女子の初等・中等教育及び 高等教育を担い、広く社会に有能な人材を育成することを目的としている。

2. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	設置年		学部・学科等
宮城学院女子大学	1949 年	大学院	人文科学研究科
		8	建康栄養学研究科
		現代ビジネス	ス学部 現代ビジネス学科
		教育学部	教育学科
		生活科学部	食品栄養学科
			生活文化デザイン学科
		学芸学部	英文学科
			日本文学科
			人間文化学科
			音楽科
			食品栄養学科
			生活文化デザイン学科
			発達臨床学科
			国際文化学科
			心理行動科学科
			児童教育学科
宮城学院高等学校	1948年	全日制課程	普通科
宮城学院中学校	1947年		
宮城学院女子大学附属認定こども園	2016年		
「森のこども園」			

3. 宮城学院の沿革

7.

1941年財団法人宮城女学校設立1943年宮城女学校を廃止、宮城高等女学校設置、専攻部を専攻科と改称

1946年 学則改正によりキリスト教主義学校へ復す。専門学校令により宮城学院女子専門学校

設置(育児科、国語科、外国(英)語科、音楽科)

1947年 新学制により宮城学院中学校設置

1948年 新学制により宮城学院高等学校設置

1949年 宮城学院女子大学設置(学芸学部英文学科、音楽科)

1950年 宮城学院女子短期大学設置(家政科、国文科)

1951年 学校法人宮城学院設立認可

1955年 宮城学院女子短期大学保育科設置

1956年 宮城学院女子短期大学附属幼稚園設置

1959年 大学学芸学部に家政学科を設置

1964年 大学学芸学部に日本文学科、短期大学に教養科を設置

1980年 東二番丁から現在地である桜ヶ丘へ総合移転

1986年 創立 100 周年

1988年 短期大学に国際文化科を設置

1995年 大学学芸学部に人間文化学科を設置、大学院人文科学研究科を設置(英語・英米文学 専攻、日本語・日本文学専攻)

1999年 大学院人文科学研究科に人間文化学専攻を設置

2000 年 大学学芸学部に食品栄養学科、生活文化学科、発達臨床学科、国際文化学科を設置

2001年 宮城学院女子短期大学廃止

2005年 大学院人文科学研究科に生活文化デザイン専攻を設置

2006年 創立 120 周年(礼拝堂増築)

高校コース制導入

2007年 大学学芸学部に心理行動科学科、児童教育学科を設置

2008 年 大学院に健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置

2009 年 大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻及び大学学芸学部生活文化学科の名称 を大学院人文科学研究科生活文化デザイン学専攻及び大学学芸学部生活文化デザイ

ン学科に変更

2016年 創立 130 周年

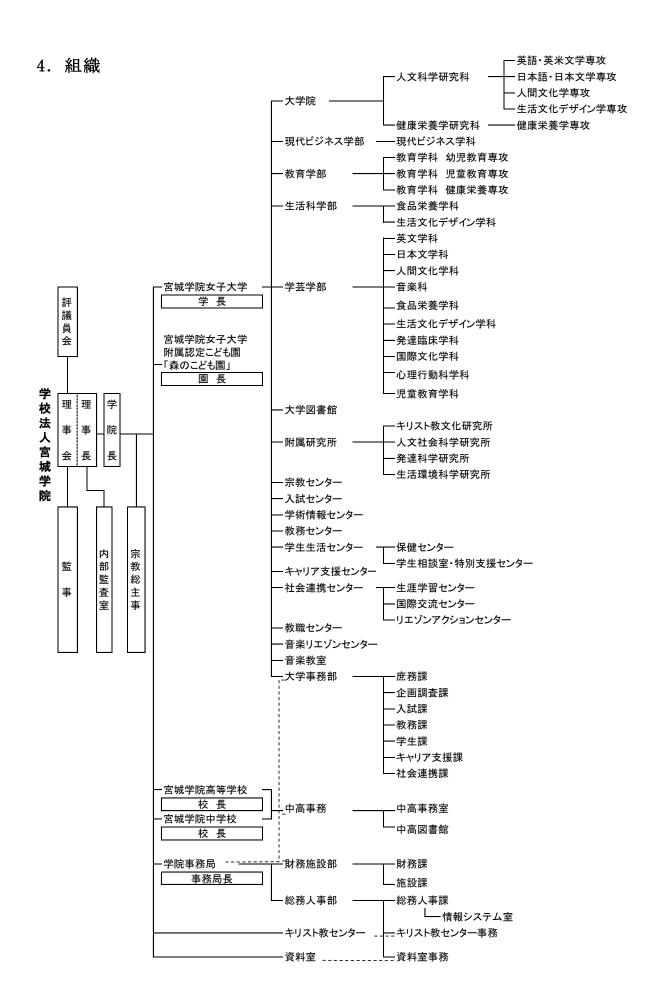
大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科、教育学部教育学科、生活科学部食品栄養学

科、生活文化デザイン学科設置

大学附属幼稚園廃止

大学附属認定こども園「森のこども園」設置

2019年 大学設置 70 周年



5. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数

(2019年5月1日現在)

			入学		学生	生徒・	園児数		収容			
				定員	1年	2年	3年	4年	合計	定員	定員比	
大	修	人文科学研究科		英語・英米文学専攻	4	1	-			1	8	0.13
学	士			日本語・日本文学専攻	4	1	4			5	8	0.63
院	課			人間文化学専攻	4	1	1			2	8	0.25
	程			生活文化デザイン学専攻	4	1	-			1	8	0.13
		健康栄養学研究和	화	健康栄養学専攻	4	4	2			6	8	0.75
		大	学院~	合計	20	8	7			15	40	0.38
大	現	代ビジネス学部	現	代ビジネス学科	95	109	104	102	89	404	380	1.06
学	教	育学部	教	育学科幼児教育専攻	90	104	95	90	85	374	360	1.04
			教	育学科児童教育専攻	50	61	53	61	50	225	200	1.13
			教	育学科健康教育専攻	30	36	29	35	38	138	120	1.15
	生	活科学部	食	品栄養学科	100	105	112	106	94	417	400	1.04
			生	活文化デザイン学科	60	72	53	49	63	237	240	0.99
	学	芸学部	英	文学科	70	92	94	80	66	332	280	1.18
			日	本文学科	100	115	104	116	110	445	400	1.11
			人	間文化学科	70	82	57	59	65	263	280	0.94
			音	楽科	25	26	23	23	21	93	240	0.39
			食	品栄養学科	İ	-	ı	1	3	4	ı	ı
			生	活文化デザイン学科	-	-	-	-	3	3	-	-
			発	達臨床学科	-	-	-	1	1	2	-	-
			国	際文化学科	-	-	-	2	11	13	-	-
			心	理行動科学科	60	70	57	66	64	257	240	1.07
			児	童教育学科	ı	-	1	-	ı	ı	ı	1
		大	:学合	<u></u>	750	872	781	791	763	3207	3140	1.02
		大学院	・大	学合計	70	880	788	791	763	3222	3180	1.01
高等学校		260	139	111	113		363	780	0.47			
中学校		160	63	52	52		167	480	0.35			
			- u	`t.	定員	未満児	3歳	4歳	5歳	116	190	0.96
認定こども園		120	30	29	32	25	116	120	0.96			
		総	合	#		1112	980	988	788	3868	4560	0.85

6. 役員の概要

定数 理事 17 名、監事 2 名 (2020 年 3 月 31 日現在)

理事監事	氏 名		選任条項	担当等
理事長	海野道郎	8-1-7 9-1	学識経験者 理事長	
理事	嶋 田 順 好	8-1-1	学院長	
理 事	us np np npc 平川 新	8-1-2	学長	
理事	e e e th pee 佐々木 隆 之	8-1-3	副学長	
理事	との かね まっこ 戸野 塚 厚 子	8-1-3	副学長	
理事	本田 辰雄	8-1-4	事務局長	
理 事	os ideal the 平 林 健	8-1-5	教職員評議員	
理事	長井祥子	8-1-6	同窓会長	
理事	^{ほしな} 保科 けい子	8-1-7	学識経験者	
理事	田中 弘志	8-1-7	学識経験者	
理事	nt かわ みき こ 石 川 幹子	8-1-7	学識経験者	
理事	*** いずみ かず ぬき 大 泉 一 貫	8-1-7	学識経験者	
理 事	さくま けいこ 佐久間 敬 子	8-1-7	学識経験者	
理事	まにゎ ひろし間 庭 洋	8-1-7	学識経験者	
理事	^{ずむ} 杉本 きみ予	8-1-8	評議員	
理事	^{すえ みつ} ま き 末 光 眞 希	8-1-8	評議員	
監事	保坂和男	17		
監 事	武田 雅比人	17		

7. 評議員の概要

		上数 55 石(2020
氏 名		選任条項
場 田 順 好	19-3-1	学院長
平川新	19-3-1	学長
本田辰雄	19-3-1	事務局長
星	19-3-2	教職員
ns (gel ass e 今 林 直 樹	19-3-2	教職員
天 童 睦 子	19-3-2	教職員
お 野 聖 子	19-3-2	教職員
できた。 ばやし けん 平 林 健	19-3-2	教職員
*** 大久保 直 樹	19-3-2	教職員
丸 山 仁	19-3-2	教職員
桜井由美	19-3-2	教職員
カた ベ しんたろう 渡 部 伸太郎	19-3-2	教職員
赤井史之	19-3-2	教職員
伊藤裕子	19-3-3	同窓会
佐藤祐見子	19-3-3	同窓会
白木悦子	19-3-3	同窓会
左 村 由美子	19-3-3	同窓会
色加幸子	19-3-3	同窓会
いた。いた。またまた 岩 井 富美枝	19-3-3	同窓会
內海祥子	19-3-3	同窓会
の がわ たく こ 野 川 卓 子 ふか だ ひろし	19-3-3	同窓会
深 田 寛	19-3-4	教職者
家 本 恭 子	19-3-4	教職者
# や D31L 瀬 谷 寛 #LU 88 あきら	19-3-4	教職者
橋 本 章	19-3-5	学識経験者
曹原裕典	19-3-5	学識経験者
佐藤博美	19-3-5	学識経験者
杉 本 きみ子	19-3-5	学識経験者
すえ みつ ま き 末 光 眞 希	19-3-5	学識経験者
木 村 順 子	19-3-5	学識経験者
ポット かつ ゆき 小野木 克 之	19-3-5	学識経験者
藤沢智子	19-3-5	学識経験者
たか はし ひろし 髙 橋 博	19-3-5	学識経験者
要 田 敏 光	19-3-5	学識経験者

8. 教職員の概要

(2019年5月1日現在)

() は前年度

区分	教育職員	教務職員※12	事務職員	合計	
法人			10 (9) **1	10 (9)	
大学	107 (109) **2	28 (23) **3	48 (48) **4	183 (180)	
高等学校	31 (28) *5	1 (0)	3 (3) *6	35 (31)	
中学校	20 (18) **7	1 (1) **8	2 (2) **9	23 (21)	
認定こども園	18 (16) **10		1 (1) **11	19 (17)	
合計	176 (171)	30 (24)	64 (63)	270 (258)	

- ※1 事務嘱託職員3名を含む。
- ※2 特任教員・特命教員 35 名を含む。
- ※3 教務嘱託職員、スポーツ振興専門員、コーディネーター 計 15 名を含む。
- ※4 嘱託職員(再雇用含む)7名を含む。
- ※5 養護教諭(専任)1名及び契約教員9名を含む。
- ※6 寮職員(嘱託職員)1名を含む。
- ※7 契約教員5名を含む。
- ※8 教務嘱託職員1名。
- ※9 事務嘱託職員1名含む。
- ※10 嘱託保育教諭 13名を含む。
- ※11 管理栄養士1名。
- ※12 教務職員とは大学は副手・助手、中学校高等学校では実習助手及び教務嘱託職員を指す。

9. 所在地一覧

学校法人宮城学院 仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目 1-1 宮城学院女子大学 同 上 宮城学院高等学校 同 上 宮城学院中学校 同 上 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」 同 上



Ⅱ. 事業の概要

1. 学院全体に関わる事業

(1) 建学の精神に基づく教育の充実

本学院におけるキリスト教教育をこども園・中学校・高等学校・大学・大学院までの一貫教育の根本に据えて、全学院的にキリスト教教育の充実化と実践的取組を実現すべく、宗教総主事を兼務する学院長が各設置学校のプログラムに積極的に関わった。学生、教職員向けの「キリスト教講座」を年7回開催し、大学聖歌隊、大学ハンドベルクワイアの活動をより本格化させ、引き続きボランティア活動を支援して、地域の振興と被災地支援の充実を図った。また、魅力あるクリスマス行事として好評の『クリスマスマーケット』は第6回を数え、福音主義キリスト教に基づく宮城学院の教育の豊かさを社会に発信した。

(2) 中高活性化に向けて

高校は、選抜コース、特別進学コース及び総合進学コースの3コース制に移行し、コース再編によるカリキュラムの充実を図るなど、中高の活性化に向けた中高中長期教育計画が順調に進められた。そのために必要となる施設設備等の整備費用及び教育運営費について予算化し、実施した。

(3) 健全な財政基盤の確立

本年度は、建学の精神に基づくキリスト教教育の更なる充実を図り、各設置学校の中長期教育計画を支えるために必要な財政基盤の安定化を目指し、各種施策に取り組むことを基本とする第4次中期財政計画(2016年度~2020年度)の4年目に当たる。学院全体の収支は厳しい状況が続いているが、本学院の主要施策となる学生生徒等の確保については、各部門とも順調に目標を達成した。

(4) 管理運営体制の強化

ア 法人の経営・運営体制等の改善

私立学校法の改正に伴い寄附行為の改正を行った。主な改正事項は、改正私立学校法を踏まえ 役員の職務及び責任の明確化等に関する規定の整備(①学校法人の責務の新設、②役員の責任の 明確化、③理事・理事会機能の実質化、④監事の理事に対する牽制機能の強化、⑤評議員会機能 の実質化)、情報公開の充実、中期的な計画の作成、破綻処理手続の円滑化である。

イ 監査体制の強化

内部監査では、監査項目として業務監査並びに会計監査を設け、業務監査では共通項目、部署固有項目を設定し、学院内規程を含めたコンプライアンスへの取組の適切性と業務運営の合理性及び効率性を中心に検証を行った。本年度は3部署に対して監査を行った。監事監査は、上半期・下半期の現金預金有価証券の監査、予算案・決算案等の監査を実施するとともに、中高、大学における受験生確保方法とその結果の適切性、大学の外部資金獲得への取組と状況の確認、図書再貸出規程、図書遡及化についての確認を重点とする教学監査を行った。さらに、理事会、評議員会に出席するとともに、内部監査室、公認会計士との意見交換を行った。公認会計士監査は年6回(延べ10日)、定期監査、現金実査確認の監査、決算監査として行い、常任理事会構成員と監事との合同懇談会を行うなど、監査充実に向けて取り組んだ。

ウ 事務組織機構の見直し

事務組織機構をグループ制から課室制に移行した。学生生徒等へのサービス・支援強化及び教育研究支援の充実が図られ、大学教学組織(センター制)と効率よく連携体制を取り、より分かりやすい組織として機能した。

エ 職員の能力開発

事務職員全体研修では、自分自身を再確認することで相手を理解し、共に成長することを目指

して研修を実施した。階層別研修のうち管理監督職研修では人事考課・労務管理など外部講師を 招いての研修、若手研修では簿記研修を実施した。また、入職年別、年齢層別、業務別などを考 慮し、職員ごとに必要と思われるスキル向上を目指して、日本私立大学連盟主催等の研修に参加 させた。

(5) 学術情報館の建設

学術情報館建設等委員会において学術情報館設計者の選定を行った。今後、ワークショップにおいて、大学を中心に学術情報館の基本コンセプトをも含めた検討がなされた後、建物の建設へと進むことになる。

(6) 施設設備等の整備

ア 施設設備の整備事業

・講義館屋上防水漏水対策工事	79,015 千円
・施設修繕準備調査	38,500 千円
・講義館重油ボイラー更新工事	32,450 千円
·中高講堂舞台吊物装置改修工事	28,865 千円
・ネットワーク機器更新及びネットワークケーブル敷設工事	16,013 千円
・第二講義館耐震診断及び耐震補強設計	15,455 千円
・中高棟 Wi-Fi 整備工事	10,436 千円
・講義館地下重油タンク FRP ライニング改修工事	10,432 千円
・礼拝堂ステンドグラス漏水対策工事	2,871 千円
・その他工事	81,098 千円
合計	315,135 千円

イ 臨時的事業計画

	* * 1 T T T T T T T T T T T T T T T T T	
・大学	講義館、第二講義館、実習館、第二家政館 視聴覚設備更	新 27,565 千円
・大学	電気デッキオーブン更新	2,106 千円
・大学	コンビオーブン・特注コンビオーブン専用架台更新	2,052 千円
・大学	ブラストチラー&フリーザー・ロングアジャスト更新	1,479 千円
・大学	紫外線可視分光光度計更新	1,123 千円
・中高	マルチメディア教室情報機器更新	11,715 千円
• 中高	顕微鏡更新	1,540 千円
• 中高	ピアノ更新(第一期)	777 千円
・法人	グループウェア導入費	2,062 千円
その他	也の事業	6,298 千円
	合計	56,717 千円

(7) 募金事業の展開

多様な寄付者の想いを酌み取ることができる募金活動の展開を目指し、①学生・生徒等の奨学基金、②学生・生徒等の活動支援、③教育・研究振興支援、④施設・設備充実支援等の多彩な寄付メニューを用意した。寄付メニュー全体を称して『オリーブリーフ募金』と命名した。2019 年度の募金総額は22,773,604 円であった。

(8) 奨学金制度等の充実

本学院における奨学金・授業料減免制度の充実のため、その時々の学生生徒支援の必要性、現状に合わせて採用基準を見直すなど規程の改正を行っている。2020年4月から国の高等教育の修学支援新制度が実施されることから本学院の奨学制度の在り方について議論を行った。また、2019年度は10月に発生した台風第19号の被災学生生徒への支援のため授業料等減免を行うこととし、2019年度後期、2020年度前期・後期を減免対象とした。

本年度奨学金等の事業実施状況は以下のとおり。

○宮城学院奨学会奨学金(貸与・継続者のみ)

大学53名 高校1名

計 40,033 千円

○宮城学院奨学会奨学金(給付及び事前予約型給付) 大学 46 名 高校 4 名 計 17,399 千円

○宮城学院女子大学奨学金(給付)

大学 22 名

計 4,800 千円

○宮城学院女子大学留学奨学金(給付)

大学1名

計 300 千円

○宮城学院同窓会奨学金(給付)

大学5名 高校6名 中学6名 計2,000千円

○宮城学院プールボー奨学金(給付・旧制度・継続者のみ)

大学 19 名

計 7,600 千円

○宮城学院女子大学学業特待生(給付・旧制度・継続者のみ)

大学9名

計 3,994 千円

○宮城学院学業特待奨学金 (プールボー奨学金) (給付)

大学8名 高校15名

計 9,694 千円

○激甚災害(台風 19 号)による授業料減免

大学8名

計 1,952 千円

(9) 働き方改革の推進

国の働き方改革関連法により、本学院においても法を順守し、より一層の労働時間の把握に務め、年5日間の有給休暇の取得を徹底した。また、全学院にグループウェア『サイボウズ Garoon』を導入したことで、自分の予定管理のみならず他の人の予定も把握できるため情報共有が可能となった。また、様々なアプリケーションが搭載されていることから、掲示板、ファイル管理などを利用して、事務の効率化を進めることができた。学外からのアクセスも可能であり、今後はテレワークなどにも利用されることが期待される。

(10) 危機管理体制の充実

本年度 6 回目となる「全学院総合防災訓練」は、全学生・生徒・園児・全教職員参加により 10 月 17 日に実施された。参加者は約 1,800 名。本年度は、訓練想定を最大震度 6 強の海溝型地震とした。また仙台市危機管理室減災推進課の OG 及川由佳里主査をお招きし、「防災・減災に生かす女性の視点」をテーマとする防災トークを開催した。2020 年 2 月以降は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生により、その対応を行っている。危機管理委員会の開催、全学院緊急対策本部会議の開催、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応ガイドラインを作成し状況の変化に合わせて更新している。さらに学内外に向けて文書を発出するなどして、感染拡大防止対策を徹底しつつ学校運営の維持に努めている。

2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項

大学においては、2016 年度から 4 学部 9 学科体制に移行し、本年度は、設置届出により開設した教育学部(教育学科)及び生活科学部(食品栄養学科・生活文化デザイン学科)並びに認可申請により開設した現代ビジネス学部(現代ビジネス学科)の完成年度となった。特に認可申請により開設した現代ビジネス学部(現代ビジネス学科)については、令和 2 年 3 月 31 日付にて大学設置・学校法人審議会学校法人分科会において審議の結果通知を受け、設置計画の履行に関して特段の指摘事項はなく、無事に完成年度を迎えることができた。

大学基準協会による認証評価については、「大学基準に適合している」と認定されたが、一部には 改善課題及び是正勧告が付されていることから、各部局において指摘事項を検証して改善に向けた 取組を行った。今後も PDCA サイクルを意識し、継続して改善に取り組む必要がある。

「私立大学研究ブランディング事業」に採択された「東日本大震災を契機とする〈地域子ども学〉の構築~子どもの視点に立ったコミュニティ研究の拠点形成~」(2018~2020 年度)のプログラムについては、予定されていた研究・事業計画に沿い、公開研究会(8回)、国際シンポジウム、ワークショップ、学生主体の企画等を実施することができた。しかし、残念ながら、3月に京都において予定されていた本学地域子ども学研究センター主催の関西~東北研究ネットワーク公開研究会「防災と子どもの権利を考える―地域子ども学の視点」、「3.11子どもと防災プロジェクト」、施設訪問調査等については、新型コロナウイルスの影響により延期された。

文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」については、本年度もタイプ 1 「特色ある教育の展開」に申請し、採択された。そのほか、科学研究費補助金等の申請を奨励し、外部資金獲得の強化を目指した。

(1) 大学における宗教教育諸活動

福音主義キリスト教に基づく建学の精神の実質化を目指し、キリスト教主義学校の社会的責任 に関わることとして、以下の活動を積極的に展開した。

ア 教育活動全般

「キリスト教学」(1年次必修)と「キリスト教と現代社会」(3年次必修)においては、聖書批評学の観点を踏まえ、聖書的人間観と世界観の展開を軸とする課題共有型の講義を行った。両科目の趣旨は、貧困、平和、性的差別、経済格差、暴力などの現代の諸課題に関心を抱き、事の理非を見分ける感性豊かな市民を形成することにある。こうした趣旨に沿って教育推進研究費が活用され、カムアウトした性的少数者による啓発的講演、カルト団体脱会者による実体験に基づく語り、暴力からの救済に関わるケアハウス従事者による実例紹介、福祉現場に関わる社会福祉施設職員の人間の生き方紹介等が特別授業として行われ、学生からも好評を得た。これらの特別授業を通して、差別や偏見や暴力の実態、反社会的団体による精神的・経済的搾取と社会の抑圧的システムとの結びつきを学生たちに認識させた。これに加えて、年2回の課外授業「ダメ人間コンサート」では、語りと歌により、勉学不振や将来に不安を抱く参加学生に元気の出るメッセージを送り続けた。

イ 宗教教育活動

キャンパスの延長線上にあると理解されるさくら寮の入寮式では、入寮者と保護者に対して、 大学教育を否定する反社会的団体の存在と手口を紹介し、今後の人生に非常に大きな意味を持つ学生生活を棒に振らないよう注意喚起した。

ガイダンスウィークでは、新入学生対象の宗教教育ガイダンスを通して、本学の建学の精神 及びキリスト教を教養として学ぶ意義を説明した。また、音楽科 4 年生対象の奏楽者ガイダン スでは、礼拝における奏楽者の心構えを聖書学的・神学的に説明し、協力と理解を求めた。技 術指導は、音楽科副手が行った。

週3回の定期礼拝(月・水・金の昼休み時間:12時10分~12時30分)においては、学内キリスト教関係者(理事長、学院長、学長、宗教センター長、キリスト者教員、キリスト教学担当非常勤講師、中高教頭、聖書科教諭)や仙台市在住キリスト教会牧師がメッセージを担当し、社会の中における自分自身の在り方を省察する機会を提供した。学生たちの礼拝出席レポートは授業でフィードバックされる。授業と礼拝メッセージとの連関は、徳育としての本学のキリスト教学科目の特徴である。定期礼拝は計67回実施され、毎回の出席者数の平均は116名であった。

キリスト教教育特別集会においては、柳時京師(聖公会)が、日本国内ではあまり知られていない朝鮮半島情勢、半島統一に向けての様々な支援、日本の役割などに関する講演を行った。 学生たちはレポートを作成し、その内容を授業でフィードバックした。 クリスマス特別礼拝では、草島豊氏(平和学研究者、日本バプテスト連盟ふじみ教会協力牧師)が、いかなる人の人生にも生きる意味があるという趣旨の感動的メッセージを語った。

コロナウイルスの影響により取りやめとなった卒業礼拝のために、瀬口昌久氏(名古屋工業大学教授)が用意してくれた秀逸なメッセージは、西洋古典の研究者として、新しい人生へと飛び立つ学生たちに対して、希望と勇気を与えた。これは柳時京師や草島豊氏のメッセージとともに、2019年度版『あかり』に掲載した。

学事日程に組み込まれたこれらのプログラムにおいては、音楽科学生たちが音楽科船橋洋介教授の指導の下、日頃の鍛錬の成果として合唱を披露した。また、金曜日礼拝の奏楽者として音楽科の 4 年生たちが忠実に奉仕している。月・水の礼拝では、優れた演奏技術を持つ外部講師が奏楽を務め、礼拝堂内の厳かな雰囲気を醸し出すことに貢献した。

さくら寮における礼拝は、6月と11月に2回行った。特に、大学生活に慣れ始める頃でもある6月の礼拝では、カルト宗教団体からの勧誘に注意を促し、一定の予防効果があった。また、さくら寮クリスマス祝会や送別会は、交流を深める良い機会となった。

なお、昼休み時間を 3 校時と接続させている学科の学生の一部は、定期礼拝に常時出席する ことが困難であり、これを改善することが課題となっている。

(2) 教育・研究活動の充実

本年度、図書館及び学科に配分された予算による図書購入は、おおむね適切に処理され、学生や教員の利用に供している。

収蔵能力の拡大については、書架を増設したことにより改善したが、中間所蔵庫の設置が遅れており、問題の抜本的解決には至っていない。一方、課題であった未遡及図書については大幅に改善した。また、非常勤講師を含む教職員への貸出冊数・期間については「図書館利用規程」を整備し、教員貸出期間を年度内としたことで、明確に現物確認ができるようになった。

また、情報教室のパソコンについて、機器の更新を行った。

学内研究費の配分は適切に行ったが、年度末に発生した新型コロナウイルスの影響により、予定していた出張を中止するなど、費目変更を余儀なくされた。

大学附属の 4 研究所については、研究会・講演会、紀要発行などが活発に行われ、研究成果も 出した。

外部資金に関する情報提供についても、担当部局から教職員に向けて行った。

(3) 教育内容の充実に向けて

ア 新学部完成年度に伴う配慮

本年度は、現代ビジネス学部・教育学部・生活科学部の完成年度であったが、学芸学部を含め、カリキュラムは滞りなく実施され、学位を授与し、卒業生を社会に送り出した。アクティブ・ラーニングの導入に加え、演習や実習において新しい試みも行われ、一定の成果を上げた。教育課程の履行において具体化した課題については、次年度以降の運用計画やカリキュラムの改善による対応が図られ、2020年度は、より改善された教育活動が展開される。

改組転換に伴う学科の統廃合については、児童教育学科に続き、発達臨床学科も在籍学生がいなくなり、廃止手続が完了した。その他の学科においても、学生の希望に応じて、卒業に向けたきめ細かな対応を行っている。

イ 高大接続事業の充実

宮城学院高等学校との接続を強化すべく、高大連携科目を高校 2 年生からの導入を計画するとともに、高校・大学の担当教員による研修会を開催するなど、更なる充実へ向け行動した。また、東北高等学校との連携協定を締結した。この他、各学科や研究所の主催による高校生向けのワークショップも開催されるなど、様々な取組を行った。

ウ 教育内容の質向上に向けた評価体制の充実

前年度以上に GPA の利活用が促進され、評価の明確化が進んだ。また、授業評価アンケートを検証し授業の改善を図るとともに、明確にされた課題について検討の方向性を示した。

PROG テストについては、FD 研修会などで意見交換が行われ、活用に向けての理解が深まった。

エ 効率的な科目開講と適切な非常勤講師の配置

各科目の受講実態に基づいて開講の適切性が検証され、教育目的の達成に向けた開講の在り方と効率的な運用の仕方について検討し、2020年度の科目(題目)を適切に設定した。また、専任教員の科目担当数の検証を行い、教育内容の充実に向けた調整と適切な非常勤講師の配置を進めた。

オ 単位の実質化に向けた対応

実効性のあるキャップ制の運用のため、制度の見直しを図るとともに、開講年次の調整や単位数の見直しを含めた検討を行った。GPA によって成績優秀者の認定を明確にし、適切な教育要件の整備を図るための準備を進めた。

カ 教育内容改善のための方策

MGU スタンダードの取組を検証し、更なる充実を図るために、全学部・学科の一般教育科目のカリキュラム改定を行った。これに加え、新学部においては、学部の完成を踏まえてカリキュラムを改定し、教育内容の改善を図った。

(4) 学生支援の充実

ア 学修支援について

学修支援活動について、ニーズを踏まえた支援制度の創設と実効性を高めるための運用計画 を準備している。また、これまで展開してきた大学図書館、学科図書室、演習室等の学習空間 の整備と活用を継続した。

ラーニング・コモンズとしての教育情報環境の整備については、学術情報館構想と連携を図り進めている。

イ 教職課程支援について

教職課程については、再課程認定された課程の適切な履行を進めるとともに、実地視察での 指摘を踏まえ、学位プログラムと教職課程の体系性について見直しを図った。

また、教職を目指す学生への支援を充実し、多くの合格者を出すことができた。

ウ 学生生活支援について

(ア) 自主活動・課外活動の支援

キャンパス内外での自主活動及び課外活動、学生行事については、学生に寄り添い、支えることで学生の満足度向上に努め、入学後のサークル紹介、学友会春季総会、新入学生歓迎会、学友会激励会、大学祭、学友会秋季総会を実施した。課外活動などで顕著な業績を収めた学生を対象に「学長賞」を授与し、人間力の向上を促す課外活動の構築に努めた。一方で、新型コロナウイルスの拡大防止の一環で、年度末に予定していた卒業パーティーなどの卒業式関連イベントや、早期合格者の集いなどの新入学生を迎えるイベントは中止となった。

(イ) 経済的支援の充実

経済的な理由によって修学困難な学生の支援を、給付奨学金、授業料減免制度によって強化することを目指した。本年度は学内各種給付奨学金に関しては、申請者の約50%にあたる65名を採択した。授業料減免に関しては、申請者の約14%に当たる19名を対象とした。また、宮城学院奨学会奨学金(事前予約型)は9名全員を採択した。そのほか、台風19号による被災学生9名を対象に、緊急経済支援として、授業料を減免した。

2020年度から実施される「高等教育の修学支援新制度並びに私立高等学校授業料の実質無償化」の導入に対しては、大学奨学金の運用方針を「高等教育の修学支援新制度導入に伴う奨

学金制度見直し検討委員会」にて協議し、実施原則を確定したほか、導入に当たっての在学生 への周知と、しかるべき手続を滞りなく行った。

(ウ) 学生相談・特別支援の充実

新入学生全員に「センター利用の手引き」を配布、保護者及び外部機関向けの「センターパンフレット」の作成と配布を通して、センターの存在と役割を幅広く周知した。大学の「共生のための多様性宣言」に関連する活動として、在学生向け説明会の開催、関連映画の上映及び当事者による講演会を通しての啓発活動を実施した。これらの活動を通して、女子大による「共生のための多様性宣言」の意義の理解を深めた。

相談体制の充実により利用学生が増加している一方、面接室が不足していること、カームダウンなどの必要な空間が不足していることが課題として挙げられ、速やかな解決が求められている。

(エ) 学生寮の管理運営及び寮生活のサポート

学生寮の管理及び運営を円滑に行うために、寮生の実態に合わせて寮規程の改定を行った。 大学の留学生受入方針を受け、大学寮においても留学生の受け入れを決定した。寮生支援においては、寮生との面談や保護者との連携を図るため「寮だより」を発行した。

そのほか、本年度はコイン式洗濯機を導入し、翌年度は寮室の椅子を更新する運びとなった。

(オ) 学生のためのアメニティの向上

有効に活用されていないロッカー室の改修計画を提案した。また、汚れ、破損が激しいブリックハウス、MG-LAC 周辺の椅子の座面のリニューアル計画も実施し、いずれも翌年度に完成予定である。

そのほか、有志学生による学内バリアフリーマップを作成し、翌年度に精査してバリアフリーに関する提案を行う予定である。

エ キャリア (就職) 支援について

(ア) キャリア教育と就職支援の体系化

女性のキャリア形成支援の視点から、生き方、働き方の自己決定を視野に入れ、多様化する 現代社会を生き抜く力を養うために必要なキャリア教育を推進した。「キャリア科目と就職ガ イダンスの体系化」については継続して取り組んでおり、本年度も、月曜 5 校時に MGU スタ ンダード専門教育科目「キャリアデザイン」を、各学科とキャリア支援課が連携・運営し、キャ リア教育の充実に努めた。特に学芸学部「キャリアデザイン」は、本年度入学生から履修方法 を全体的に見直し、より学生に分かりやすく、かつ将来的に 3 年次の就職ガイダンスへスムー ズに移行できるよう変更した。

(イ) 低学年からの就職支援、職員の質の向上及び資格取得のための支援

就職支援としては、例年どおり、学生の希望する進路の実現を目指し、学科の特性に応じたきめ細かい就職支援を行えるよう、学部3年生・大学院1年生を対象とした各種講座を、学部1、2年生へも開講した。各種講座には、毎週月曜5校時に開講する「就職ガイダンス(業界・職種研究セミナー、採用担当者によるトークセッション、マナー講座、求人票の見方など)」、内定を得た4年生から就職活動の体験を聞く「ジュニアアドバイザーに聞こう」、夏季休業中の3日間で実施する集中講座「SPI(非言語)対策実践講座」、労働基準法を学ぶ「知っておきたいワークルール」、地方自治体主催の企業情報交換会に職員が参加し得られた情報を学生に伝える「地方会」などがある。いずれも、卒業後の進路に対し意欲的な1、2年生が、事前に情報を得たいと積極的に参加した。これは前述のとおり、「キャリアアップセミナー」により多様な職業の女性達の話を聞くことによって、今、成すべきこと・必要なことを自ら考え行動した結果であり、キャリア教育が根付いてきた証と言える。

職員の質の向上を図るために、日頃から職員一人ひとりが積極的に情報を得るとともに情

報を共有し、学生のニーズに応えられるよう努めた。その情報を生かし、学生への手厚い就職個別相談(年間延べ3,300件超)を実施した。また新型コロナウイルスの影響により、3月5・6日に予定していた合同企業研究会を中止した後は、学生の安全・衛生的な環境を確保しつつ、学生が不安を解消できるよう就職相談を進めた。

また、各種資格セミナーについての情報提供を積極的に行った。士業と呼ばれる専門資格職業の「士」資格については 2017 年度に実施して好評を博した。本年度は 7 月 2 日に実施。社会保険労務士、税理士、司法書士、行政書士、宅地建物取引士、不動産鑑定士の計 6 名の女性によるパネルディスカッションとワークショップを行い、24 名が参加した。

(ウ) 就職活動が難しい学生への支援及び就職を希望しない学生への支援

全学科キャリア支援担当教員が参加するキャリア支援センター会議を 5 回実施した。各学科の就職支援の取組や学生の状況について情報交換を行い、学生の就職先拡大を図るとともに、就職活動に直面することが困難な学生への支援や、非就職学生への進路支援などを、守秘義務を守りつつ、学内の関連部署(各学科、特別支援室、学生相談室等)と連携しながら取り組んだ。企業とのパイプを生かし、諦めないよう根気強く学生を支援した。なお、新型コロナウイルス対策として、学生支援の観点から、電話相談、オンライン相談を取り入れた。

(5) 学生募集

大学入試センター試験から大学入学共通テストへの変更をはじめ、2021 年度入試において、名称変更にとどまらない改革が予定されていることから、それらに対応した入試制度の構築を目指した。

具体的には、総合型選抜において、これまで対象としていなかった食品栄養学科を加えることとし、特別入試制度には、新たに特別入試 (スポーツ) を導入することや、特別入試 (社会人) の出願資格のうちの年齢要件を 25 歳から 22 歳に引き下げるなど、多様な受験生のニーズに対応する入試制度を構築することとした。

一方、令和 3 (2021) 年度大学入学共通テストにおいて導入される予定だった記述式問題や、「大学入試英語成績提供システム」の導入が延期されたことに伴い、本学の入試制度についても見直しを行い、4回にわたってホームページにて情報を公開した。

外国人留学生獲得のための方策として、台湾とタイにある 2 校を海外指定校にするとともに、 仙台にある日本語学校 3 校も新たに指定校として選定し、本年度の留学生の受験及び入学に繋げ ることができた。

入試制度の検証としては、入試区分及び学科(専攻)ごとに在学生の GPA の成績データを分析した結果や、2014年度から実施してきた AO 入試の志願者数の増加等に対応するため、2021年度入試から、主に AO 入試(2020年度から総合型選抜)や推薦入試(2020年度から学校推薦型選抜)、一般入試等の各学科の定員を見直すこととした。

宮城県外の高校へのアプローチについては、本年度は例年どおりのスケジュールにて各高校を 訪問したが、次年度に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う就職状況の変化などに合 わせ、より効果的なアプローチを行う。

今年度の後半は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2月以降に予定されていた各高校での校内ガイダンスなどの多くが、延期もしくは中止となった。

入学試験の実施に当たっては、一般入試 (B 日程) 以降の入試区分においては新型コロナウイルスの影響があったと推測されるものの、予定されていた入試は全て実施することができた。

上記活動の結果、2020 年度の入学者数は、設定した目標数を上回る831名を確保することができた。一方、音楽科は、唯一入学定員を満たすことができなかったことから、入試結果をもとに入試データを解析し、入試広報活動などについて再検討を行い、入学定員の未充足を解消できるよう努める。

(6) 社会連携 (MG-LAC 活動を含む)

社会連携センターは設置から 6 年目を迎え、連携先との継続事業が根付いてきた。様々な外部 団体から新規事業の案件が持ち込まれることも増え、活動の裾野が広がっている。

連携協定を締結している富谷市とは、地域こども学研究センターが「食事準備力形成支援に向けての実態調査」を行うなど、従来までの食育事業に加えて、子育て支援にも事業の範囲を拡大したことで連携関係をより強固なものにできた。

また、現代ビジネス学部と(株)東北協同事業開発の間で、2017年から学生たちが共同開発に 取り組んでいた「古今東北」ブランドの各商品については、着実に販売実績を伸ばしたこともあ り、正式に連携協定を締結した。

MG-LAC の事業としては、学生の自主活動プロジェクト及び各種ボランティア活動において、 多くの学生が精力的に取り組んだ。特に 2019 年 10 月の台風第 19 号では、丸森町を中心に 5 回 の災害ボランティアチームを派遣し、約 60 名の学生が瓦礫撤去や土砂の排出などを行った。

(7) 国際交流

協定校である韓国の忠南大学から学生 1 名を受入れた。本学学生の海外派遣についてはリーズ大学 (イギリス) 3 名、ウィニペグ大学 (カナダ) 2 名、北アリゾナ大学 (アメリカ) 1 名、高雄大学 (台湾) 1 名、ハイデルバーグ大学 (アメリカ) 1 名、クィーンズランド工科大学 (オーストラリア) 1 名であった。

また、海外研修としては、英文学科のイギリス研修に 45 名、人間文化学科のインド研修に 11 名、教育学科のスウェーデン研修に 12 名、生活文化デザイン学科のヨーロッパ研修に 15 名が参加し、それぞれ有意義な研修を行った。

なお、2020年2月下旬以降、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、留学中であった学生4名を 緊急帰国させる措置を講じるなどの対応を行った。

(8) 生涯学習

本年度は、文学、文芸、歴史、外国語、音楽、芸術、その他オムニバス講座を含む全 35 講座を 開設した。キリスト教文化研究所提供講座、キリスト教思想、文学、歴史、芸術等、バラエティー に富んだ構成で、受講者は年間延べ約 600 名に上った。

また、11月9日に「市民開放公開講演会」として、平川新学長による「庶民剣士が活躍した江戸時代-江戸時代像を見直す―」と題した無料講演会を開催し、100名を超える市民が参加した。 そのほかにも、宮城県からの委託による「現任保育士大学派遣研修」を実施するなど、幅広い世代の方に本学の教育資源を提供した。

例年3月に講座紹介を兼ねて開催している「大人のためのオープンキャンパス」は、本年度は、 新型コロナウイルスの影響により中止せざるを得なかった。

(9) 大学院

ア 人文科学研究科

研究科改革委員会を発足させ、改革事項の検討に着手した。本年度は広報を強化し、学部学生へ配布物による修学支援制度の説明、ホームページの内容具体化、キャリア支援課と教職センターへ大学院進路指導の依頼を行った。その上で、入学者数には一層の改善が必要と捉え、社会人入試制度等の検討にも着手する。FD 研修会は学部との合同開催に加え、研究科独自の研修を年度末に実施した。また、研究科の院生全員を対象とした研究倫理研修会を実施した。

イ 健康栄養学研究科

教育体制の充実を図るため、本年度において修士論文指導教員 1 名の増員を目指し、厳正な審査を行ったが、審査基準に満たなかったため増員計画は次年度に見送ることとなった。

在籍者数について、本年度は4名が入学したことにより、在校生と合わせ、総数は6名となった。本年度は1名が修了したが、本年度2回実施した2020年度大学院入試においては、計3名

の合格者を得ることができ、適正な在籍者数を維持することができた。

「臨床栄養分野の管理栄養士のための高度専門力育成プログラム」(文部科学省認定「職業実践力育成プログラム (BP)」) については、受講者 3 名が課程を修了した。また、同プログラムが、厚生労働省の教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定を受けることとなった。

(10) 大学後援会活動及び保護者等との連携

大学後援会の活動については、4月4日入学式終了後に新入学生の保護者を迎え「大学後援会入会式」を執り行い、5月25日には本学の大学講堂を会場として「大学後援会総会」を開催した。また、例年どおり宮城県以外の東北5県を会場にした「地区後援会」を開催した。そのほか、在学生の保護者が、本学における教育方針や日々の教育諸活動、学生が過ごしている学内の情報を知る機会として「宮城学院女子大学後援会会報(vol.6)」を発行した。

大学後援会総会では、総会開催前に本学院の礼拝堂において「音楽科によるミニコンサート」を開催し、本学オルガニスト・研究生・学生による演奏を行った。総会においては、例年どおりに 2018 年度事業報告及び 2019 年度事業計画などの審議を行い、承認を得た。その後、本学における学生生活やキャリア支援に関する説明、本学の就職状況等に関する報告を行った。また、本年度は初めての試みとして学長賞受賞者による成果発表を行った。

さらに、会場を変えて、学科ごとにクラス担任を交えた懇談の場を設けた。そのほかにキャリア支援センターにおいては、担当職員による就職に関する相談の場を設けた。

地区後援会では、保護者の関心が高い就職状況、キャリア支援に関する事例報告、実際の就職活動を経験した在学生を招き「私の就職活動」と題した体験談の発表を行ったほか、学業成績などの教務事項及び学生生活に関する事項など、就職以外の事項についても個別懇談を行った。

2019年度実施した地区後援会の開催日程及び会場は、次のとおり。

- 8月24日(土)ホテル辰巳屋(福島市)
- 8月25日(日)青森国際ホテル(青森市)
- 9月 1日(日) ホテルメトロポリタン山形(山形市)
- 9月 7日(土)秋田ビューホテル(秋田市)
- 9月 8日(日)ホテルメトロポリタン盛岡(盛岡市)

3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項

(1) 教育計画全般

- ア 中学校・高等学校では、建学の精神を堅持し、スクールモットーである「神を畏れ、隣人を愛する」の下に、女子教育の特色と希少性を存分に活かしつつ、時代のニーズに的確に応える教育を実践してきた。本校は、本年度も、神の前に謙虚に真理を追究し、世界の人々と共に歩み、人類の福祉と平和のために貢献することができる人間性豊かな女性を育む教育を実践した。
- イ 上記教育目標を実践するために、①英語教育、②音楽教育、③グローバル・スタディーズ(グローバル教育)を教育の三本柱としている。この三本柱は、伝統的に本校が教科教育、生徒会活動、学校行事などを通して大切にしてきたものである。これらのプログラムを教育カリキュラムとして保証することにより、宮城学院中学校高等学校の教育への信頼が得られている。
- ウ 学校教育の基本である、教員の授業力、生徒指導力の向上に努めてきた。具体的には、ICT 教育について研修会を持ち、教員のスキルアップを行った。また、これまで行ってきた教員研修を更に充実させ、年間を通しての教科ごとの研究授業、生徒による授業アンケートの実施、教員の授業改善シート提出及び校長面談などを行った。さらには、2020年度の大学入試改革に対応したアクティブ・ラーニング研修と授業実践を積み重ね、生徒の思考力、判断力、表現力を培う教育力を着実に身に着け、その研修内容等について学校評価委員会において適切に評価いただき、日々刷新の努力を続けている。

(2) キリスト教教育活動

キリスト教教育の要である日々の礼拝を大切にしてきた。中高一貫教育の実質化のために、中高合同礼拝を本年度も継続した。また、YWCAの取組として、老人ホーム、児童養護施設におけるボランティア活動に取り組み、また、夏には南三陸町でのサマーキャンプにおいて、集中的な聖書の学びと被災者の方々との交流を通じ、「隣人を愛する」使命について生徒たちが主体的に省察する機会とした。さらには、これまで中学校新入生を対象としていたリトリートキャンプを、本年度から高等学校新入生も対象とした。

(3) 学習指導

- ア 生徒自身の学力向上のため、自学自習の習慣を身に付けることを目的に、学年ごとに設定された家庭学習時間を達成できるよう指導してきた。スマートフォンやゲームに依存して家庭学習が困難になりつつある現状を打開するため、引き続き、放課後学習支援室(スタディモール)を充実させ、校長、進路指導部長、選抜コース進路主事、特進コース進路主事、スタディモール担当教員の連携の下、生徒が日々の予習・復習を着実にこなすことができるよう指導した。
- イ 本年度から設置した選抜コース、特進コースについては、進学実績を目に見える形で向上させるために、スタディモールの「勉強班」を必修化し、学力を引き上げるよう指導した。また、引き続き「校内予備校」を実施し、従来の Ad (アドバンスト) コース、Cr (クリエイティブ) コース及び新設の総合進学コースの生徒に対して、放課後の大学入試対策講座を実施し、学力を強化してきた。併せて、高校3年生に対して、1~2月に国公立大学二次試験対策講座を行い、入試に対する挑戦意識を持続できるようにした。本年度は難関私立大学の合格者が増えたが、今後は難関国立大学の合格者増を目指して指導していく。
- ウ 2 教科型入試及び思考力型入試で中学校に入学した生徒には、2014 年度から開始したオンライン英語プログラムを課し、読む、聴く、話す、書くという 4 技能についてバランスの取れた英語力を育てている。また、英語入試で入学した生徒(E-Junior)に対しては、「グレープ・シード」を教材として用い、週 5 コマのネイティブによる会話中心の授業と、オンライン英語プログラムを展開するとともに、日本人専任教員による文法の授業を 3 コマ設け、4 技能をバランスよく伸ばしてきた。

本年度から特進コースに GC (グローバル・コミュニケーション) 専攻を設置した。将来英語を学ぶ又は英語を用いて働くために必要なレベルの高いコミュニケーション能力を育み、海外大学や英語に力を入れている日本の高等教育機関への接続を図る取組として、検定指導や受験対策の研究を、外部団体の支援を受けながら実践してきた。全体の英語力が向上した結果、本年度の大学入試で国際基督教大学に 2 名合格した等、私大難関校への進学者が増えた。

- エ 学習の基礎である読書力を身に付ける取組を、全教科にわたって行い、図書館の利用度を高めてきた。今後もビブリオ・バトル等を実施し、生徒の読書意欲を高める取組を継続する。
- オ 昨年度に引き続き、宮城学院女子大学の講義を高校生が受講し単位を取得する、高大連携を推進してきた。また、中長期教育計画に示した高等学校 1・2 年生の高大連携事業を推進するために、副学長並びに各学部学科と協議を進めてきた結果、高校 2 年生は来年度から実施することとした。高校 1 年生は今後の実施に向けて検討を進める。
- カ 2020 年度から大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テストが導入される。本校でも 実施されたプレテストを基に各教科で研究を進め、授業内容に反映させてきた。また、文部科学 省が実施する「全国学力・学習状況調査(中学校)」を本年度から実施した。これらを通して生 徒の思考力・表現力を高める教材に取り組んでいる。
- キ 普通教室棟の Wi-Fi 敷設が完了し、高校 1 年生から iPad を学用品化した。ICT 推進委員を中心に、授業実践を広げるための研修会を行い、Google Classroom を利用した教材配信やレポート提出、教材共有による協働学習に全教科で取り組んだ。2020 年度大学入試の対応として、調

査書の活動記録に関する記述欄について、全生徒に Classi を用いてオンライン上で特別活動を 日々記録させる取組を行った。また、「中学校技術」の授業の一部と、「高等学校情報」の授業に プログラミング教育を取り入れ、本年度も引き続き教材の一部にレゴマインドストーム(ロボッ ト教材)を使用し、生徒のプログラミングに対する意識向上に繋げてきた。

(4) グローバル・スタディーズ

「総合的な学習の時間」(高等学校では「総合的な探究の時間」)で実施する「グローバル・スタディーズ」においては、「世界の中の日本~貧困と教育・平和と差別・環境と開発」をテーマに掲げた3年目の最終年度となった。

本校の卒業生であり、国連世界食糧計画(WFP)マラウィー事務所で学校給食担当官を務める由 佐泰子氏から「あなたもわたしも隣人―私たちができる世界の飢餓撲滅への貢献」と題して講演を 行っていただいた。小グループでの探究学習や DVD 鑑賞は、それぞれの学年で学年行事などとの 繋がりを意識しながら取り組んだ。例えば、中学校 3 年生は、長崎校外研修旅行への学びを意識し て平和教育につながる DVD 鑑賞を行い、高校 2 年生は本年度から校外研修をシンガポールで行う ため、異文化と平和をテーマに取り上げ、各グループがその成果を発表した。しかし、年度末にお いて、調べ学習の発表の場であるポスター発表会は実施したものの、新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため、その後のプレゼンテーションは中止せざるを得ない結果となった。

(5) 海外研修・国際交流・国際寮

本校ではカナダの PCS (Pacific Christian School)、オーストラリア Westminster School との 相互訪問を行っているが、本年度は Westminster School からの訪問及び春休みに予定していた PCS への海外短期研修について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。しかし、 本年度の冬期ターム留学(3ヶ月留学)には11人が参加し、オーストラリア・アデレードにおける 夏期ターム留学も2年目を迎え、参加者は増加している。本プログラムについては更に参加者を増 やしていくため検討を行う。そのほか、AFS、ロータリー財団などの交換留学団体と提携し、学内 で説明会を開催するなど、1 年間の海外留学制度についても紹介した。その結果、ロータリー財団 の奨学生として、昨年度に引き続き本年度も 1 名合格することができた。また、カナダの PCS に も初めて3ヶ月留学生を送ることができた。このように本校から留学する生徒は年々増加している と同時に、海外からの留学生と帰国生が本年度はアフリカ、アジア、アメリカ、ヨーロッパから21 名が集まり、キリスト教学校ならではの多様性を尊重する教室と国際寮は、ますます賑わってきた。 この国際寮は留学生と日本人の生徒がルームシェアすることにより、24 時間文化交流が可能なるこ とから、受験生からも一定の評価を得ている。また、留学生と国際教育担当教員で構成するキャラ バン隊を作り、近郊の小学生に異文化を紹介する取組を実践してきた。しかし、年度末に起こった 新型コロナウイルスの影響により、留学生が来日できない状態が続いている。これにより国際交流 の機会を得ることが難しくなっているが、国際教育を推進する本校の姿勢は変わらず、これからも 魅力ある活動を増やすように努めていく。

(6)音楽教育

中高の音楽教育は、ミッションスクールとしての宗教音楽を大切にしている。毎年 12 月に行うクリスマス礼拝を学校最大行事と位置付け、学年ごとに、中学生はクリスマスキャロルを、高校生はメサイアを、そして最後にメサイアの中でも最も有名なハレルヤコーラスを全校生で讃美している。歌うことが好きな人も苦手な人も、心を合わせて 1 つのハーモニーを創り上げることにより、互いを思いやることができる「MG 生」としての心を養ってきた。本年度も受験生、保護者、同窓生、これまで宮城学院中学校高等学校に関わってくださった多くの方々に参加していただき、共にイエス・キリストの誕生を祝い、豊かな時を持つことができた。中高の音楽教育として、このクリスマス礼拝は絶対に変えてはならないものとして、これからも大切にしていく。

音楽系のクラブは、これまで同様、積極的に地域社会への貢献に励んできた。オーケストラ班で

ある管楽部門(吹奏楽班)と弦楽部門(弦楽班)は、特別コーチの指導のもと、更にレベルを上げるべく練習に励んできた。中学校入試、高等学校推薦入試で受験を希望する生徒が増えるよう、更なる努力を続けていく。

(7) 生徒会指導、生活指導

ア 生徒会指導

生徒会活動は生徒の自主性を重んじつつ、自立的な主体性を育成する教育活動の場として位置付けられている。目標を「キリスト教教育を柱に、自主自立の精神を育む教育」と定め、他者を尊重し、互いに信頼し高め合える仲間作りを行っている。運動会や文化祭、合唱コンクールなど、多くの行事を通して責任と義務を全うするリーダーシップを育ててきた。これらは自らの力で問題に取り組み、意見を述べ、人の考えにも耳を傾けることを重視するとともに、学習とは異なる形で、思考力、判断力、表現力を養う場として大切にしている。

その活動の1つとして、生徒たちの「自分たちの制服に誇りを持ち、全校生徒にきちんとした 身だしなみで着用してもらいたい」という願いから、生徒会の中心メンバーが制服業者と共に企 画・運営する「制服セミナー」がある。これまで中高別に行ってきたが、ぜひ中高合同で行いた いとの生徒からの申し出を受け、3月中旬の実施に向け準備を進めてきた。コロナウイルスの影響により臨時休校となったため中止となったが、今後の状況を見ながら来年度にぜひ行いたいと 考えている。

イ 生徒指導

年2回学校生活アンケート調査を実施し、生徒たちの現状を的確に把握し、問題がある場合には速やかに面談の機会を持ち、生徒が心身共に健やかに充実した学校生活を送れるように、各担任のみならず全教員で対応してきた。また、スマートフォン、インターネットを巡るトラブルを引き起こさないよう、利用マナーについて学ぶ講演会を生徒・保護者に対して実施するとともに、ネットパトロールを通じて情報収集に努めてきた。また、本年度からは不登校生徒の一時的な学校の居場所として「教育支援室」を校内に設け、コーディネーターを配置することにより、不登校生徒の学校復帰を促進するよう努めた。不登校や発達に課題を持つ生徒、精神的にケアを必要とする生徒に対して、一人ひとりに最適な支援と対応ができるよう、中高校務委員会、生徒支援委員会で情報を共有し、学校、家庭、スクールカウンセラーが連携して取り組んでいる。

(8) 進路指導

既存のAdコース、Crコースについては、引き続き進路指導部長と学年が連携し、進路指導を行った。また、新コースそれぞれの進学実績を向上させるために、「選抜コース進路主事」、「特進コース進路主事」、「総進コース進路主事」、「GC(グローバル・コミュニケーション)専攻進路主事」を設置し、その指導にあたった。「選抜コース進路主事」は東北大学を中心とした難関国立大学への進路実績を向上させるために選抜教科担当者と毎週会議を行い、進学指導の管制官の役割を務めた。「特進コース進路主事」は、中堅国公立大学、難関私大の進路実績を向上させるために、勉強班指導者、教科担当者と連携し、進学指導を指揮した。「総進コース進路主事」は宮城学院女子大学を中心とした指定校推薦入試やAO入試、自己推薦入試による合格者を増やすために有益な情報を、担任や生徒に提供した。「GC 専攻進路主事」は海外大学進学指導を推進し、TOEFL 対策を行った。

本年度から、高等学校3年生に対して1月の終業後も講習会を実施し、受験生の国公立大学二次 対策や私立大学受験支援を行った。また、宮城学院女子大学への推薦が決まった生徒についても全 員登校させ、リメディアル教育を行った。

コース再編後も「東京研修」や「進路の日」などの進路行事を通して、生徒のモチベーションが 高まる進学指導が行えるように改善を重ね、生徒一人ひとりの進学を応援してきた。

(9) 高等学校のコース再編と入試広報

入試広報部による、効果的な入試広報活動を展開してきた。ホームページの CMS 機能を十分活用するため、広報部員等に割り振り、更新回数を増やした。

中学校英語入試、高等学校のコース再編を更に定着させるため、塾対象学校説明会やオープンキャンパス、入試説明会を他校に先駆けて行ってきた。日程的にその場に集えない受験生・保護者に対しては、土曜個別入試説明会の回数を増やし対応した。さらに、組織的・体系的に小学校・中学校・塾・予備校を訪問し、宮城学院中学校高等学校への関心と理解を高めるよう努めてきた。これにより、中学校も高等学校も説明会の参加人数は増加した。また、英語入試受験生を増やすために、小学生を対象とした「チャレンジ・イングリッシュ」を本年度も実施した。しかしこれらの取組により、各種説明会参加者数が増加したが、受験生の増加には結び付かなかった。また、「学業特待奨学制度」を新たに設けたものの、選抜コースの入学者を増加させるには至らなかった。これらについては今後慎重に分析する必要がある。

「総合進学コース」では、リーダーシップ推薦入試及び部活動推薦入試志願者の対象に、ソフトテニス班と自然科学班を加えたことは、志願者増加に一定の効果があった。また、高等学校入試において帰国生入試、留学生入試を実施し、国際アドバイザーの協力の下、受験生確保に繋げることができた。また、転編入試も引き続き行い、本年度は3名の入学に繋がった。

(10) スクールバス

スクールバス運行路線(北東部方面、古川方面、愛子方面)の単純化により、運行距離及び運行時間を短くしたこと、スクールバスの大きさを利用人数に見合ったものに是正したことにより、運行における財政状況の改善を図った。

今後は、料金改定を念頭に置きながら、経費を可能な限り削減しつつ、運行経路、運行形態について検討していく。

(11) その他

地域の自治会、公立小・中学校との信頼関係を大切にするとともに、留学生との交流などを推進し、地域から愛される学校として、地域の人々との交流、協力関係を深める努力を続けた。

また、本年度から制服を新たにするなど、引き続き新しいブランドイメージにつながるよう努力 していく。

4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項

2019年度の修了式を 2020年3月14日にこども園の北園庭で行った。新型コロナウイルス感染対策でどのような修了式にするのか決断を迫られたが、職員や運営委員会と協議したうえで、北園庭において保護者1名の出席で挙行した。2月から感染症予防のための欠席者も多く、全員での練習はほとんどできなかった。また、4歳児による歌の見送りも中止し、来賓の皆様にも出席を見合わせていただくなど、特別な形で開かれた修了式であった。

暖冬で比較的暖かな日が続いていたが、当日は7度を下回る気温の中、子どもたちが森の道を通って入場し席に着き、礼拝から式が始まった。短い式典の中で、子どもたちが伝統のガウンに身を包み植木鉢の花で飾られた中央の道を凛として歩く姿、25名が歌うきれいな讃美歌は森の木立へと吸い込まれていった。退場の際には、出席できなかった4歳児が歌う歌を流すことができた。

大学の研究している北欧のアウトドア教育が、3年半の森のこども園の保育で子どもたちをこのように成長させたのかと感慨深いものがあった。幼児教育の重要性と「非認知能力」は自然を体験する乳幼児の保育で培われることをこれまでも繰り返し伝えられ学んできた。今回の修了式で、まさにその成果を垣間見た。0歳児~就学前までの6年間を本園のような環境で保育する素晴らしさ、それに加え、固定遊具を置かず環境を生かした保育の展開は、子どもたちが主体的に動くことを学び、環境から得る知識(アクティブ・ラーニング)が決して計画の中だけで語られるものではないこと

を立証した。

こども園に関わる大学の研究者及び保育者が、「森のこども園誕生」までのいきさつと、この3年 半の保育の実践をまとめている。この場所で保育をすることが、どのように子どもたちに有益なの かを言語化することを保育者自身が確認し、自信を深めていくことにもなる。

特に、他園では類を見ない食育の実践は、中心になった管理栄養士が保育者を巻き込み、保育の中での実践として展開できたのは、本学の教員の助言と指導が大きい。仙台市の食育推進会議では、この事例が様々な分野の参加者に感銘を与えた。

- ア 行事の前に行う礼拝が、0~2 歳児の子どもたちにも次第に身につき、静かな時間の中で祈る姿勢が身についてきた。初めてキリスト教に触れた職員も、奏楽を弾き讃美歌を教えること、祈ることが日々の生活の中でできるようになった。5 歳児の合同礼拝では、中高の宗教主事が、子どもたちに分かりやすく聖書の話を伝えた。その中で、子どもたちから好きな聖書の言葉が出てきたのは、大きな変化である。
- イ アウトドアを中心とした保育の中で、「不思議だなあと思う心」「感動する心」「思いやりを持つ心」を 3 本の柱として、一人ひとりの思いを受け止められる保育を目指した。園内研修での地図作りにより、各学年が何を学び、保育者はそれにどのような援助をして保育を展開してきたかを、確認し合いながら学ぶ時間を大切にした。特に、固定遊具がないことを、保育をする上で不安に思っていた保育者が、「ない」のではなく自然の環境には遊びが限りなく「ある」ということが分かってきたことが大きな変化であった。
- ウ 子どもたちの表現遊びが形になってきた。日々歌う讃美歌はもとより、年長児が歌を美しく歌うことが、下の学年にも波及している。0~2 歳児が大切にしているわらべ歌や手遊びをベースに、3~5 歳児が 12 月の降誕劇、2 月に行う劇遊びは、クリスマス祝会や参観日に見ていただいた保護者はもとより、下の学年の子どもたちにも大きな感銘と刺激を与えた。さらに、5 歳児は森で発見した足跡や食痕から「アナグマの物語」を創作し、保護者に大きな驚きをもたらした。それを見ていた年少の学年にも感動と刺激を与え、脈々とその姿勢が引き継がれている。また、今年も松本ゼミによる学生のオペレッタを全園児が見る機会を設け、劇遊びを行った子どもたちにとって刺激となり、背景や大道具、小道具作りに意欲的に取り組んだ。森の音楽会は演奏家の予定が合わず一度の開催であったが、ハロウィンコンサートとして保護者も一緒に楽しんだ。例年、東京からお呼びした講師に絵本の読み聞かせをしていただいているが、本年度も本物に触れる機会の多い保育となった。
- エ 子育て支援は3つの柱をもとに運営されている。広場事業として0~2歳児対象の「どんぐりくらぶ」は年齢ごとに遊びの提供や、親子の楽しい交流の場を提供おり、「にこにこ DAY」ではサークルに属さない方を中心としたフリーの企画を実施、子育て講座として本学教授を講師とした「ヒュッゲ森の講座」は回数を重ねるごとに参加者に深い学びを提供している。また、子育て相談は本学教授の協力の下、外部の方のみならず本園の保護者からの申し込みもあり、子育てについての悩みを相談できる場を提供しました。
 - 一時預かり保育は、保育教諭の採用が間に合わず、本年度は6月から始動した。しかし、保育者不足により1月には閉めざるを得なかった。
- オ 児童クラブは定員 20名を超える 23名が登録する人気の学童保育となった。しかしこのままでは、本園修了児の受け入れが難しくなるため、運営規定の改正を行い、定員を 30名としたことで、2020年度対象は 12名の修了児が登録できた。大学教員たちが講師として小学生を指導する講座や、食育の講座など実体験できる学びも多く、子どもたちはもちろん、保護者にとっても利用したい児童クラブとして育った。

利用者が増えたことに加え、新型コロナウイルスの影響により2月から休校となった児童が、一日を通して利用するようになり、2名の職員で運営することが難しくなった。午後5時から保育室で預かることもあり、課題となった。

カ 当園では、全園児が保護者の送迎で登降園しており、北門からの車両入出構を円滑にする方法や、 行事ごとの駐車場の利用方法を、工夫して保護者にお知らせしていた。しかし、北門から徒歩で登 降園する方もおり、保護者アンケートでは、安全面での配慮など、様々な意見が述べられたことも あり、今後も丁寧な説明が必要である。

5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項

(1) 音楽教室の位置付けと近年の傾向について

昨年度、教育課程やコース等を大きく改定したが、本年度は更に改定を行った。それにより音楽 教室の授業を受けられる年齢の幅が広がり、多様な要望に応えられるようになった。また、近年音 楽科が実技の専攻内容を改定していることから、そのニーズにも柔軟性を持って対応できるように なった。

大学学芸学部音楽科につなぐ専門的音楽教育機関としての教育活動を、更に拡充した。専門的音楽教育という面と、社会に向けての一般的音楽教育という面の、両方での充実を図った。

本年度、音楽教室設立 60 周年という節目を迎え、更に歴史を重ねていくためには、創設時からの様々な伝統を踏まえながら、時代のニーズに応えられる音楽教室にしていくことが大事である。近年はその理念に基づき、様々な改定を行っている。

(2) 行事について

本年度の中心的行事は、8月に青年文化センターにおいて行った第60回発表会であった。これは開室60周年記念の発表会となった。例年、コース別で2日間に分けて開催しているが、本年度は1日に全ての演奏を行った。午前中はソロのステージ、午後にアンサンブルステージ、その後に音楽教室特別講師の及川浩治氏(音楽科特任教授)の演奏という、記念発表会にふさわしい内容となった。アンサンブルステージでは、教室生たちが書いた詩を使って、なかにしあかね氏(元本学教授)に作詞作曲を委嘱した。教室生たちは自分たちの考えた言葉の入った歌に生き生きと取り組み、なかにしあかね氏の指導も実りの多いものになった。アドヴァンストコースのアンサンブルでは、小山和彦氏(音楽科教授)の既存の曲に加え、新しい曲も委嘱して3名のピアノのアドヴァンストコース生が演奏した。弦楽器のアンサンブルも充実した演奏となった。全てのプログラムにおいて、教室生にとって、今後の音楽学習に役立つような素晴らしい経験となった。なかにしあかね氏の合唱曲は、出版という形で60周年を形づけることができた。

本年度は 6 月の MG 音楽祭にも音楽教室として参加し、音楽祭のオープニングを担当した。多くの方々が来場して盛況であった。内容は、音楽教室から大学音楽科に進学した学生によるピアノ連弾(2組)と声楽の二重唱、その後、音楽科の非常勤講師であるサクソフォンの小田島航太氏とマリンバの星律子氏のデュオコンサートであった。音楽教室の教育と新専攻の両方を披露する良い機会となった。

12月にはクリスマスマーケットに参加した。昨年も人気だった楽器体験は順番待ちとなり、整理券を配付するなど、本年度も大盛況になった。近年続けている泉区ショッピングモールでのクリスマスコンサートは、本年度は教室の卒業生の協力もあり、船橋洋介氏(音楽科特任教授)の指揮の下、弦楽アンサンブル履修生中心の演奏を披露した。多くの方々が足を止めて演奏に聞き入ってくださり、充実したクリスマスコンサートとなった。

(3) 特別講師レッスン

特別講師の及川浩治氏(音楽科特任教授)によるピアノレッスンを 2 月に行った。アドヴァンストコースの教室生にとって、専門的音楽教育を受けることができ、更に充実した時間になった。

(4) 広報

例年に引き続き、ホームページやフェイスブックへの記事投稿、チラシ配布などを行った。音楽 教室の魅力を発信できるように、教育課程やコースの改定部分がわかりやすいように広報を行った。

6. キリスト教センターに関する事項

キリスト教センターでは、キリスト教センター及び大学宗教センターの事業を以下のとおり実施 した。

- (1) 全学院の年度聖句「ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。」(ガラテヤの信徒への手紙第5章13節)の学内掲示及び刊行物への掲載を行った。
- (2) 全学院教職員礼拝(原則毎月第3水曜日16:30~17:00)、定期礼拝(4/24、5/29、6/26、7/17、10/23、11/13、2/19)のほか、特別礼拝として、公開クリスマス礼拝(12/6)、新年礼拝(1/4)、創立記念礼拝及び墓前礼拝(9/18)を行った。なお、3月11日に予定していた東日本大震災の被災者を覚えての記念礼拝は、コロナウイルスの感染防止のため中止した。
- (3) クリスマス事業として、「クリスマス・チャペルコンサート~オーボエ西沢澄博と仲間たちが奏でるクリスマスの調べ~」(11/30)、クリスマス・キャンパス装飾(11/15~12/23)、クリスマス・イルミネーション点灯式(12/2)、宮城学院クリスマスカードの製作のほか、大学宗教センターと併せてクリスマス献金(11/22~12/16)を実施した。また、クリスマスマーケット(12/15)において開会礼拝、コンサート、閉会式のサポートを行った。
- (4) キリスト教講座を、前期 4 回 (5/14、6/6、6/18、7/11)、後期 3 回 (10/28、11/6、11/28) 開催した。
- (5) ハートフルボランティア・サポート事業として、団体の募集、審査、助成金交付説明会(6/11) を行い、大学 7 グループ、中高 3 グループに助成金を交付し、ボランティア活動を支援した。また、活動報告会(2/15)を行い(約 40 名出席)、報告書を刊行した。
- (6) 学院内外の説教担当者が一堂に会する礼拝説教者懇談会を、3月9日開催の予定であったが、コロナウイルスの感染防止のため中止した。
- (7) 刊行物として、宮城学院教職員礼拝説教集『GLORY TO GOD』(74 号、75 号、76 号)、『礼拝 ガイドブック 2020』、『チャペルガイド 2020』、『ハートフルボランティア報告書 2019』を作成し、 教職員や関係機関に寄贈・送付した。
- (8) 学生(教職員)の定期礼拝(授業開講期の月・水・金曜日 12:10~12:30)を 67 回(4/15~1/15)、特別礼拝としてクリスマス礼拝(12/12)を行った。なお、3月17日に予定されていた卒業礼拝は、コロナウイルスの感染防止のため中止となったが、説教原稿を『あかり』(大学礼拝説教・特別行事講演収録集)に掲載した。
- (9) 特別行事としてキリスト教教育特別集会 (6/13) を実施した。ガイダンスとして、新入生対象のキリスト教センター所属 3 団体ガイダンス (4/6)、音楽科ピアノ履修の 4 年生を対象とした礼拝奏楽者ガイダンス (4/6) を実施した。
- (10) 大学礼拝説教・特別行事講演の収録集『あかり』を作成し、全学生・教職員に配付、また、関係機関に寄贈・送付した。
- (11) 大学 YWCA は、聖書研究会、大学祭特別礼拝及びバザー(10/20)、大学クリスマス礼拝でのキャンドルサービス(12/12)のほか、課外活動として宮沢賢治記念館等への訪問(8/16)、「切手きっペ」(使用済み切手の回収・郵送)等、活発に活動した。
- (12) 大学ハンドベルクワイアは、ハンドベルフェスティバル岩沼大会 (7/7)、宮城県ハンドベルコンサート (12/1) に参加し、大学礼拝やクリスマス礼拝等における賛美演奏奉仕を行った。そのほか、ボランティアとして、クリスマスマーケットにおけるミニコンサート (12/15)、Sendai Winter Parkにおけるミニコンサート (12/21)、パインツリー南光台ボランティア訪問コンサート (12/22) 等、積極的に活動した。
- (13) 大学聖歌隊は、大学礼拝における教会暦賛美奉仕のほか、第 2 回定期演奏会 (9/28)、クリスマスマーケットにおけるミニコンサート (12/15) を開催した。

7. 資料室に関する事項

(1) 資料整理·調查

資料の整理として、定礎格納品(第一校舎定礎格納箱の中身)を写真データ化した。 調査として、奥山玲子氏(同窓生・NHK 朝の連続テレビ小説『なつぞら』ヒロインのモデル) について、小田部羊一氏(夫・アニメーター)や同窓生に聞き取り調査を行った。

(2) レファレンス

レファレンスは、約20件となった。学外からは早稲田大学、東北学院大学等、学内では大学教員、中高教諭、職員、同窓会からの問合せがあり、調査回答した。また、資料公開、紹介、研究のための準備資料を整える役割を担い、特に「バイブルウーマン」についての問合せは、C104 倉庫から「現在校生徒中基督教信者名簿:明治39年」を発見し、回答することができた。

(3) 勉強会

1月31日に「150年史に向けて~歴史を語り継ぐ第3回~」と題し、宮城学院と関係の深い方々を招き、講話を記録に残した。また、一般教育部の教授陣が主催する「光あおいで自校史勉強会」 (9月~3月)に参加し、資料紹介、資料提供、質問への回答を行った。

(4) 講話依頼

創立記念行事の一つとして、中学2年生に「宮城学院の歴史」について講話を行った。

(5) 展示会

7月5日~7月14日に仙台市戦災復興記念館で開催した戦災復興展(人間文化学科大平聡教授による学芸員課程実習)において、資料提供、展示協力を行った。さらに、9月3日~9月7日に本学講義館 C609 教室で学内展示会「一戦火を越えたタイムカプセルー宮城学院の戦争被害」を開催した。

(6) 資料室見学

1月22日~1月23日に立教学院展示館、東京女子大学新渡戸記念館、青山学院資料センター展示室を訪問、見学した。

(7) 出版物等

『資料室年報 第25号』刊行

『E・R・プールボー書簡集』 300 部増刷

パルティール vol. 28、29 寄稿

(8) その他

1999 年にカンサス大学から寄贈された、いわゆる「ハンセン資料」のデジタル化を進め、マイクロフィルム 60 巻のうち No.40 \sim No.42 をデータ化した。

「資料室からのおしらせ」を、学内にメールで一斉配信し、同窓生の紹介等を行った。

Ⅲ. 財務の概要

2019年度も引き続き、第4次中期財政計画に基づき財政基盤の強化を目標とした。大学における学部学科改組、中学校・高等学校における中長期教育計画推進等、各設置学校の教学改革により、入学者数は前年度より増加し、学生生徒園児在籍者総数も増加となった。

教育活動収支は、まさしく本業である学校本来の教育研究活動によるもので、その教育活動収支差額は基本的にはプラスとなるべきである。2019年度は法人全体として152,731千円のプラスとなった。また、教育活動外収支差額は99,309千円、経常収支差額は252,039千円となった。以下、本年度決算の概要について報告する。

1. 事業活動収支計算書

当該会計年度の収支を、経常的な収支と特別な収支(臨時的収支)に区分し、経常的な収支については、本業である教育活動収支と、財務活動を中心とする教育活動外収支に分け、内容を明らかにするとともに、当該会計年度の基本金組入額を控除して事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としている。

(1) 教育活動収支

教育活動収入計は、前年比 89,567 千円増の 4,813,894 千円となった。教育活動支出計は、前年比 92,735 千円増の 4,661,164 千円となった。教育活動支出の主なものとして、人件費は前年比 156,971 千円減の 2,804,149 千円、教育研究経費は前年比 187,658 千円増の 1,523,577 千円、管理経費は前年比 58,961 千円増の 329,636 千円となった。

教育活動収入計から教育活動支出計を差し引いた教育活動収支差額は、前年比 3,166 千円減の 152,731 千円となった。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収入計は、全て受取利息・配当金で前年比 7,311 千円減の 99,995 千円となっている。 教育活動外支出計は全て借入金等利息で 686 千円である。

以上により、教育活動外収支差額は、前年比7,236千円減の99,309千円となった。

(3) 特別収支

特別収入計は、前年比 6,219 千円減の 12,313 千円となった。なお、特別収入には、本年度採択された中高 ICT 関連の教育設備整備費補助金 6,287 千円が含まれる。

特別支出計は、96,497 千円となった。これは主に、車両及び図書除却による資産処分差額 10,300 千円、退職給与引当金特別繰入額 86,000 千円である。

以上、特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は△84,184 千円となった。

(4) 基本金

基本金は全体で 172,315 千円を組入れた。第 1 号基本金は、主に固定資産取得及び除却によるもので 182,513 千円を組み入れた。第 2 号基本金は、「学術情報館建設資金」から、11,649 千円を取り崩した。第 3 号基本金は、教育基金 1,450 千円を組み入れた。

(5) 当年度収支差額

当年度収支差額は△4,460 千円となり、翌年度繰越収支差額は△1,714,517 千円となった。

2. 資金収支計算書

当該会計年度に行う諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払 資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。)の収入及び支出のてん末を明らかにす ることを目的としている。

(1) 2019 年度の資金収入は、前年度繰越支払資金 1,530,417 千円を含めた資金収入全体が 7,110,511 千円となり、前年比 108,087 千円増となった。資金収入から支出合計 5,410,263 千円を控除した翌 年度繰越支払資金は、1,700,249 千円となり、前年比 169,831 千円増となった。

- (2) 収入の部では、学生生徒等納付金収入、手数料収入、寄付金収入は、事業活動収支計算書の収入 と同じである。新入生数に関係する納付金等の前受金収入は、前年比 30,811 千円減の 716,159 千円 となった。その他の収入には、各引当特定資産からの取崩収入が含まれている。
- (3) 支出の部では、人件費支出には退職金支出 151,132 千円が含まれる。借入金等返済支出は、さくら寮の建設資金借入返済を含め 144,840 千円となった。施設関係支出は 90,359 千円で、前年比 104,649 千円減となった。設備関係支出は前年比 40,386 千円増の 137,282 千円となった。資産運用支出は、減価償却引当資産に本年度から募集を開始したオリーブリーフ募金のうち施設・設備充実のための寄付金 1,094 千円及び未指定の寄付金 5,149 千円を、「オリーブリーフ募金引当特定資産」として、また、30,960 千円を「学科設置等準備資金引当特定資産」として繰り入れた。

3. 貸借対照表

貸借対照表は、資産の部、負債の部、純資産の部で構成され、当該年度末の財政状態を表すことを 目的としている。

- (1) 資産の部は、計 24,096,890 千円となり、前年度末 24,017,906 千円から 78,984 千円増となった。 有形固定資産は前年度末 11,602,353 千円から 230,711 千円減の 11,371,642 千円、特定資産は前年度 末 9,999,259 千円から 290,428 千円増の 10,289,687 千円、その他の固定資産は前年度末 568,002 千 円から 23,358 千円減の 544,644 千円となった。なお、流動資産は前年度末 1,848,292 千円から 42,624 千円増の 1,890,916 千円となっている。
- (2) 負債の部は、主に固定負債の長期借入金 920,000 千円、流動負債の短期借入金 132,840 千円が含まれ、合計は、前年度末 3,428,759 千円より 88,870 千円減の 3,339,889 千円となった。
- (3) 純資産の部は、基本金は合計 22,471,519 千円となった。第 1 号基本金は前年比 182,514 千円増、第 2 号基本金は前年比 11,649 千円減、第 3 号基本金は前年比 1,450 千円の増である。繰越収支差額の翌年度繰越収支差額は、 $\triangle1,714,517$ 千円となった。
- (4) 資産の部合計 24,096,890 千円から負債の部合計 3,339,889 千円を差し引いた純資産の部合計は 20,757,002 千円となり、純資産構成比率(旧会計基準:自己資金構成比率)は前年度より上昇し86.1% となった。また、運用資産の蓄積度を示す内部留保資産比率は、35.9%(前年度33.7%)と前年とほぼ同じである。なお、新学校法人会計基準で新設された積立率(運用資産/要積立額)は、学校法人の将来の確定的債務や奨学金の原資となる基金について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを示す比率であり、88.3%となった。

過去5年間の推移及び構成比率

○資金収支計算書

収入の部 (単位:千円)

科 目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
学生生徒等納付金収入	3,333,237	3,530,394	3,587,878	3,657,427	3,885,319
手数料収入	60,881	56,581	57,155	59,370	60,360
寄付金収入	53,830	49,978	64,436	40,572	42,698
補助金収入	613,176	782,863	644,925	740,467	682,047
資産売却収入	0	0	0	0	127
付随事業·収益事業収入	29,516	31,297	24,528	25,422	48,072
受取利息·配当金収入	139,224	123,520	112,217	107,306	99,995
雑収入	117,625	181,447	153,737	227,844	130,084
借入金等収入	0	0	0	90,000	0
前受金収入	678,080	676,499	669,503	746,970	716,159
その他の収入	717,742	842,454	800,715	638,593	779,239
資金収入調整勘定	△ 704,507	△ 989,705	△ 819,155	△ 914,034	△ 864,006
前年度繰越支払資金	2,504,900	2,249,007	1,761,145	1,582,488	1,530,417
収入の部合計	7,543,704	7,534,335	7,057,084	7,002,425	7,110,511

支出の部

人件費支出	2,792,740	2,986,167	2,985,266	2,981,244	2,835,458
教育研究経費支出	864,427	857,557	926,055	945,289	1,130,957
管理経費支出	264,284	266,753	242,811	238,580	295,322
借入金等利息支出	2,538	1,914	1,272	761	686
借入金等返済支出	160,840	160,840	160,840	150,840	144,840
施設関係支出	242,862	394,470	34,309	195,008	90,359
設備関係支出	48,646	77,768	79,843	96,895	137,282
資産運用支出	740,835	858,917	869,275	807,778	677,115
その他の支出	276,461	275,599	283,134	255,634	319,083
資金支出調整勘定	△ 98,936	△ 106,795	△ 108,209	△ 200,021	△ 220,840
翌年度繰越支払資金	2,249,007	1,761,145	1,582,488	1,530,417	1,700,249
支出の部合計	7,543,704	7,534,335	7,057,084	7,002,425	7,110,511

○資金収支計算書(構成比率)

収入の部

科 目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
学生生徒等納付金収入	44.19%	46.86%	50.84%	52.23%	54.64%
手数料収入	0.81%	0.75%	0.81%	0.85%	0.85%
寄付金収入	0.71%	0.66%	0.91%	0.58%	0.60%
補助金収入	8.13%	10.39%	9.14%	10.57%	9.59%
資産売却収入	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
付随事業·収益事業収入	0.39%	0.42%	0.35%	0.36%	0.68%
受取利息·配当金収入	1.85%	1.64%	1.59%	1.53%	1.41%
雑収入	1.56%	2.41%	2.18%	3.25%	1.83%
借入金等収入	0.00%	0.00%	0.00%	1.29%	0.00%
前受金収入	8.99%	8.98%	9.49%	10.67%	10.07%
その他の収入	9.51%	11.18%	11.35%	9.12%	10.96%
資金収入調整勘定	-9.34%	-13.14%	-11.61%	-13.05%	-12.15%
前年度繰越支払資金	33.21%	29.85%	24.96%	22.60%	21.52%
収入の部合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

支出の部

支出の部合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
翌年度繰越支払資金	29.81%	23.37%	22.42%	21.86%	23.91%
資金支出調整勘定	-1.31%	-1.42%	-1.53%	-2.86%	-3.11%
その他の支出	3.66%	3.66%	4.01%	3.65%	4.49%
資産運用支出	9.82%	11.40%	12.32%	11.54%	9.52%
設備関係支出	0.64%	1.03%	1.13%	1.38%	1.93%
施設関係支出	3.22%	5.24%	0.49%	2.78%	1.27%
借入金等返済支出	2.13%	2.13%	2.28%	2.15%	2.04%
借入金等利息支出	0.03%	0.03%	0.02%	0.01%	0.01%
管理経費支出	3.50%	3.54%	3.44%	3.41%	4.15%
教育研究経費支出	11.46%	11.38%	13.12%	13.50%	15.91%
人件費支出	37.02%	39.63%	42.30%	42.57%	39.88%

○事業活動収支計算書

(単位:千円)

ı		7. E	2015	22125-	20175	2010	(単位:千円)
科目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
		学生生徒等納付金	3,333,237	3,530,394	3,587,878	3,657,427	3,885,319
		手数料	60,880	56,581	57,155	59,370	60,360
	収入	寄付金	53,331	54,101	66,551	40,740	45,324
		経常費等補助金	597,986	631,572	644,925	728,048	675,760
教 育		付随事業収入	871	1,371	8,013	10,075	15,678
活		雑収入	118,515	181,107	155,523	228,667	131,453
動 収		教育活動収入計	4,164,820	4,455,126	4,520,045	4,724,327	4,813,894
支		人件費	2,755,896	2,932,058	2,971,147	2,961,120	2,804,149
	支	教育研究経費	1,235,805	1,238,582	1,320,784	1,335,919	1,523,577
	出	管理経費	302,381	304,931	288,162	270,675	329,636
		徴収不能額等	2,121	2,949	585	715	3,802
		教育活動支出計	4,296,203	4,478,520	4,580,678	4,568,429	4,661,164
	教	育活動収支差額	△ 131,383	△ 23,394	△ 60,633	155,897	152,731
	ıl=	受取利息•配当金	139,224	123,520	112,217	107,306	99,995
教	収 入	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教 育 活		教育活動外収入計	139,224	123,520	112,217	107,306	99,995
動		借入金等利息	2,538	1,914	1,272	761	686
外 収	支出	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
支		教育活動外支出計	2,538	1,914	1,272	761	686
		教育活動外収支差額	136,686	121,606	110,945	106,545	99,309
		経常収支差額	5,303	98,212	50,312	262,442	252,040
		資産売却差額	0	0	0	0	10
	収 入	その他の特別収入	26,329	157,147	9,424	18,532	12,303
特		特別収入計	26,329	157,147	9,424	18,532	12,313
別 収		資産処分差額	20,892	8,226	8,969	7,461	10,300
支	支出	その他の特別支出	86,425	86,040	86,499	86,153	86,197
		特別支出計	107,317	94,266	95,468	93,614	96,497
		特別収支差額	△ 80,988	62,881	△ 86,044	△ 75,082	△ 84,184
基本金組入前当年度収支差額			△ 75,685	161,093	△ 35,732	187,360	167,856
基本金組入額合計			△ 215,916	△ 225,500	△ 272,420	△ 245,209	△ 172,315
当年度収支差額			△ 291,601	△ 64,408	△ 308,151	△ 57,849	△ 4,460
前年度繰越収支差額			△ 1,039,048	△ 1,330,649	△ 1,344,057	△ 1,652,208	△ 1,710,057
基本金取崩額			0	51,000	0	0	0
翌年度繰越収支差額			Δ 1,330,649	Δ 1,344,057	Δ 1,652,208	Δ 1,710,057	△ 1,714,517
事業氵	活動卓	以入計	4,330,374	4,735,793	4,641,686	4,850,164	4,926,202
—————————————————————————————————————			4,406,059	4,574,700	4,677,417	4,662,804	4,758,348

○事業活動収支計算書(構成比率)

科目			2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
	収入	学生生徒等納付金	76.97%	74.55%	77.30%	75.41%	78.87%
		手数料	1.41%	1.19%	1.23%	1.22%	1.23%
		寄付金	1.23%	1.14%	1.43%	0.84%	0.92%
		経常費等補助金	13.81%	13.34%	13.89%	15.01%	13.72%
教		付随事業収入	0.02%	0.03%	0.17%	0.21%	0.32%
育活		雑収入	2.74%	3.82%	3.35%	4.71%	2.67%
動 収		教育活動収入計	96.18%	94.07%	97.38%	97.41%	97.72%
支		人件費	63.64%	61.91%	64.01%	61.05%	56.92%
	支	教育研究経費	28.54%	26.15%	28.45%	27.54%	30.93%
	出	管理経費	6.98%	6.44%	6.21%	5.58%	6.69%
		徴収不能額等	0.05%	0.06%	0.01%	0.01%	0.08%
		教育活動支出計	99.21%	94.57%	98.69%	94.19%	94.62%
教育活動収支差額			-3.03%	-0.49%	-1.31%	3.21%	3.10%
	収入	受取利息•配当金	3.22%	2.61%	2.42%	2.21%	2.03%
教 育		その他の教育活動外収入	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
育活		教育活動外収入計	3.22%	2.61%	2.42%	2.21%	2.03%
動		借入金等利息	0.06%	0.04%	0.03%	0.02%	0.01%
外 収	支出	その他の教育活動外支出	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
支		教育活動外支出計	0.06%	0.04%	0.03%	0.02%	0.01%
		教育活動外収支差額	3.16%	2.57%	2.39%	2.20%	2.02%
		経常収支差額	0.12%	2.07%	1.08%	5.41%	5.12%
	.1	資産売却差額	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	収 入	その他の特別収入	0.61%	3.32%	0.20%	0.38%	0.25%
特	,	特別収入計	0.61%	3.32%	0.20%	0.38%	0.25%
別 収	支出	資産処分差額	0.48%	0.17%	0.19%	0.15%	0.21%
支		その他の特別支出	2.00%	1.82%	1.86%	1.78%	1.75%
	[特別支出計	2.48%	1.99%	2.06%	1.93%	1.96%
		特別収支差額	-1.87%	1.33%	-1.85%	-1.55%	-1.71%
基本金組入前当年度収支差額			-1.75%	3.40%	-0.77%	3.86%	3.41%
基本金組入額合計			-4.99%	-4.76%	-5.87%	-5.06%	-3.50%
当年	度収3	支差額	-6.73%	-1.36%	-6.64%	-1.19%	-0.09%

○貸借対照表

(単位:千円)

T.I -					(単位:干円)
科 目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
資産の部	04 000 445	04 677 457	04 000 400	00 400 044	00 005 05 1
固定資産	21,390,112	21,677,457	21,888,433	22,169,614	22,205,974
有形固定資産	12,086,512	12,107,974	11,767,757	11,602,353	11,371,642
土地	1,413,585	1,413,585	1,413,585	1,413,585	1,413,585
建物	7,912,596	8,043,608	7,700,207	7,514,217	7,210,894
構築物	199,837	229,253	218,485	215,251	204,301
教育研究用機器備品	251,641	247,167	253,586	261,506	314,588
管理用機器備品	34,557	31,459	28,445	30,052	29,748
図書	2,132,738	2,141,614	2,151,460	2,163,438	2,175,554
車輌	1,158	1,287	1,989	4,304	6,054
建設仮勘定	140,400	0	0	0	16,918
特定資産	8,778,320	9,026,933	9,554,018	9,999,259	10,289,687
第2号基本金引当特定資産	776,398	699,274	750,634	753,335	741,686
第3号基本金引当特定資産	1,225,089	1,251,169	1,273,575	1,285,025	1,286,475
退職給与引当特定資産	1,067,059	1,098,950	1,170,830	1,223,312	1,277,731
減価償却引当特定資産	5,625,902	5,893,380	6,299,642	6,685,571	6,913,208
育英運用等引当特定資産	83,872	84,160	59,337	52,016	70,588
その他の固定資産	525,280	542,550	566,658	568,002	544,644
電話加入権	1,898	1,898	1,898	1,898	1,898
施設利用権	822	0	0	0	С
ソフトウェア	8,378	12,022	8,788	12,859	10,123
有価証券	1	1	1	1	1
長期貸付金	513,849	528,298	555,543	552,824	532,306
長期運用預金	0	0	0	0	С
敷金	332	332	428	420	316
流動資産	2,373,111	2,126,307	1,785,284	1,848,292	1,890,916
現金預金	2,249,007	1,761,145	1,582,488	1,530,417	1,700,249
未収入金	105,564	314,013	148,111	248,889	121,991
短期貸付金	0	32,959	36,440	47,317	50,424
前払金	18,540	18,190	18,245	21,669	18,253
資産の部合計	23,763,223	23,803,763	23,673,717	24,017,906	24,096,890
負債の部					
固定負債	2,486,419	2,357,470	2,278,510	2,276,152	2,197,731
長期借入金	1,419,360	1,258,520	1,107,680	1,052,840	920,000
退職給与引当金	1,067,059	1,098,950	1,170,830	1,223,312	1,277,731
流動負債	1,000,378	1,008,775	993,420	1,152,607	1,142,157
短期借入金	160,840	160,840	150,840	144,840	132,840
未払金	80,461	88,255	90,019	181,775	199,171
前受金	678,545	676,785	670,369	746,970	716,159
預り金	80,532	82,895	82,192	79,022	93,987
負債の部合計	3,486,797	3,366,245	3,271,930	3,428,759	3,339,889
純資産の部					
基本金	21,607,075	21,781,575	22,053,995	22,299,204	22,471,519
第1号 基本金	19,238,588	19,515,133	19,713,786	19,944,844	20,127,358
第2号 基本金	776,398	699,274	750,634	753,335	741,686
第3号 基本金	1,225,089	1,251,169	1,273,575	1,285,025	1,286,475
第4号 基本金	367,000	316,000	316,000	316,000	316,000
繰越収支差額	△ 1,330,649	△ 1,344,057	△ 1,652,208	△ 1,710,057	△ 1,714,517
翌年度繰越収支差額	△ 1,330,649	△ 1,344,057	△ 1,652,208	△ 1,710,057	△ 1,714,517
純資産の部合計	20,276,426	20,437,518	20,401,787	20,589,147	20,757,002
負債及び純資産の部合計	23,763,223	23,803,763	23,673,717	24,017,906	24,096,890

○貸借対照表(構成比率)

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
資産の部					
固定資産	90.01%	91.07%	92.46%	92.30%	92.15%
有形固定資産	50.86%	50.87%	49.71%	48.31%	47.19%
土地	5.95%	5.94%	5.97%	5.89%	5.87%
建物	33.30%	33.79%	32.53%	31.29%	29.92%
構築物	0.84%	0.96%	0.92%	0.90%	0.85%
教育研究用機器備品	1.06%	1.04%	1.07%	1.09%	1.31%
管理用機器備品	0.15%	0.13%	0.12%	0.13%	0.12%
図書	8.97%	9.00%	9.09%	9.01%	9.03%
車輌	0.00%	0.01%	0.01%	0.02%	0.03%
建設仮勘定	0.59%	0.00%	0.00%	0.00%	0.07%
特定資産	36.94%	37.92%	40.36%	41.63%	42.70%
第2号基本金引当特定資産	3.27%	2.94%	3.17%	3.14%	3.08%
第3号基本金引当特定資産	5.16%	5.26%	5.38%	5.35%	5.34%
退職給与引当特定資産	4.49%	4.62%	4.95%	5.09%	5.30%
減価償却引当特定資産	23.67%	24.76%	26.61%	27.84%	28.69%
育英運用等引当特定資産	0.35%	0.35%	0.25%	0.22%	0.29%
その他の固定資産	2.21%	2.28%	2.39%	2.36%	2.26%
電話加入権	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
施設利用権	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
ソフトウェア	0.04%	0.05%	0.04%	0.05%	0.04%
有価証券	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
長期貸付金	2.16%	2.22%	2.35%	2.30%	2.21%
長期運用預金	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
敷金	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
流動資産	9.99%	8.93%	7.54%	7.70%	7.85%
現金預金	9.46%	7.40%	6.68%	6.37%	7.06%
未収入金	0.44%	1.32%	0.63%	1.04%	0.51%
短期貸付金	0.00%	0.14%	0.15%	0.20%	0.21%
前払金	0.08%	0.08%	0.08%	0.09%	0.08%
資産の部合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
負債の部					
固定負債	10.46%	9.90%	9.62%	9.48%	9.12%
長期借入金	5.97%	5.29%	4.68%	4.38%	3.82%
退職給与引当金	4.49%	4.62%	4.95%	5.09%	5.30%
流動負債	4.21%	4.24%	4.20%	4.80%	4.74%
短期借入金	0.68%	0.68%	0.64%	0.60%	0.55%
未払金	0.34%	0.37%	0.38%	0.76%	0.83%
前受金	2.86%	2.84%	2.83%	3.11%	2.97%
預り金	0.34%	0.35%	0.35%	0.33%	0.39%
負債の部合計	14.67%	14.14%	13.82%	14.28%	13.86%
純資産の部					
基本金	90.93%	91.50%	93.16%	92.84%	93.25%
第1号 基本金	80.96%	81.98%	83.27%	83.04%	83.53%
第2号 基本金	3.27%	2.94%	3.17%	3.14%	3.08%
第3号 基本金	5.16%	5.26%	5.38%	5.35%	5.34%
第4号 基本金	1.54%	1.33%	1.33%	1.32%	1.31%
繰越収支差額	-5.60%	-5.65%	-6.98%	-7.12%	-7.12%
翌年度繰越収支差額	-5.60%	-5.65%	-6.98%	-7.12%	-7.12%
純資産の部合計	85.33%	85.86%	86.18%	85.72%	86.14%
負債及び純資産の部合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

Ⅳ. 資料

1. 理事会、評議員会の開催状況

(1) 理事会の開催状況

開催年月日	議題	
2019(令和元)年	1. 2018 年度事業報告 (案) について	
5月28日(火)	2. 2018 年度決算(案) について	
(定期)	3. 2018 年度資産運用報告について	
	4. 寄附行為第19条第3項第2号評議員(事務職員)の選任について	
	5. 寄附行為第19条第3項第5号評議員(学識経験者)の選任について	
	6. 学長候補者選考委員会の設置について	
	7. 校長候補者選考委員会の設置について	
7月23日 (火)	1. 私立大学研究ブランディング事業について	
(定期)	2. 旧大学寮(橄欖寮)の売却について	
	3. 名誉教授称号授与の辞退について	
9月24日 (火)	1. 中高改革の現状について(中間報告)	
(定期)	2. 私立学校法等の一部改正について (報告)	
10月29日(火)	1. 寄附行為第19条第3項第2号評議員の選任について	
(臨時)	2. 寄附行為第19条第3項第3号評議員の選任について	
	3. 寄附行為第19条第3項第4号評議員の選任について	
	4. 寄附行為第19条第3項第5号評議員の選任について	
	5. 寄附行為第8条第1項第7号理事の選任について	
	6. 2019 年度臨時事業計画の追加申請について	
11月12日(火)	1. 監事の選任について	
(定期)	2. 2020年度予算編成方針案について	
	3. 寄附行為第8条第1項第5号理事(教職員評議員互選)の選任について	T
	4. 寄附行為第8条第1項第8号理事(評議員選出)の選任について	
11月28日(木)	1. 理事長の選任について	
(臨時)	2. 学長の選任について	
	3. 私立学校法の改正について(報告)	
12月17日 (火)	1. 寄附行為の改正について	
(臨時)	2. 寄附行為施行細則の改正について	
	3. 理事会の運営に関する規程について	
	4. 宮城学院役員の報酬等に関する規程について	
	5. 寄附行為施行細則に定める役職者の給与に関する規程について	
	6. 校長候補者選考委員会からの報告について	
	7. 宮城学院女子大学学則の改定について	
2020(令和 2)年	1. 第3号基本金「宮城学院奨学基金」組入れ計画の変更について	
1月28日 (火)	2. 2019 年度補正予算(案) について	
(定期)	3. 学術情報館設計者選定について	
	4. 監事監査意見について	

3月17日 (火)	1.	2020 年度事業計画(案)について
(定期)	2.	2020 年度予算(案)について
	3.	宮城学院女子大学学則の改定について
	4.	宮城学院女子大学大学院学則の改定について
	5.	宮城学院監事監査規程の改正について
	6.	宮城学院情報の公開及び開示に関する規程の制定について
	7.	宮城学院資金運用管理規程の一部改正について

(2) 常任理事会の開催状況

開催年月日		議題
2019(平成 31)年	1.	施設修繕準備調査業務の契約について
4月9日 (火)	2.	中高組合春闘要求に対する回答について
	3.	事務関係職員組合春闘要求に対する回答について
	4.	専任事務職員の休職について
4月23日(火)	1.	産業医の選任について
	2.	2019 年度事務嘱託職員 (庶務) の採用について
	3.	専任事務職員病気休暇者の代替職員採用計画について
	4.	2019 年度資産運用計画について
2019(令和元)年	1.	2018年度事業報告(案)について
5月14日 (火)	2.	2019年度こども園嘱託保育教諭(産休代替)の採用について
	3.	事務職員人事に関する規程の一部改正について
	4.	2018年度大学経常費補助金の総括(報告)について
	5.	2018年度中高運営費補助金の総括(報告)について
5月21日 (火)	1.	2018年度事業報告(案)について
	2.	2018年度決算 (案) について
	3.	2018年度資産運用報告について
	4.	寄附行為第19条第3項第2号評議員(事務職員)の選任について
	5.	寄附行為第19条第3項第5号評議員(学識経験者)の選任について
	6.	大学私費外国人留学生に対する経済的支援について
	7.	宮城学院学業特待奨学金(プールボー奨学金)に関する規程の一部改正に
		ついて
6月4日 (火)	1.	研究ブランディング事業推進員の採用について
	2.	宮城学院女子大学における公的研究費による研究活動に関わる不正行為防
		止に関する規程の改定等について
	3.	宮城学院女子大学奨学金規程施行細則の改正について
	4.	2019年度一時金について
	5.	中高講堂舞台吊物装置改修工事の契約について
	6.	ネットワーク機器更新及びネットワークケーブル敷設工事の契約について
	7.	2019年度内部監査計画及び監査の実施について
6月18日 (火)	1.	事務組織規程改正に対応した大学規程改正について
	2.	宮城学院女子大学附属音楽教室教員の給与支給に関する基準の一部改正に
		ついて
	3.	2020年度大学教員採用計画の申請について

	4.	名誉教授候補者の辞退について
	5.	青桜シャロン寮の修繕について
	6.	2018年度こども園決算について
7月2日 (火)	1.	2019年8月事務局人事について
	2.	礼拝堂(チャペル)の改修について
	3.	中高奨学生入試の導入について
	4.	講義館重油ボイラー更新工事の契約について
	5.	講義館地下重油タンクFRPライニング改修工事の契約について
7月16日(火)	1.	2019年度こども園嘱託保育教諭の採用計画について
	2.	2020年度大学教員採用計画について
	3.	私立大学研究ブランディング事業について
	4.	宮城学院女子大学研究ブランディング事業推進委員会規程の制定について
	5.	宮城学院63歳定年退職者の再雇用に関する規程の一部改正について
	6.	高等教育の修学支援新制度導入に伴う奨学金制度見直し検討委員会の設置
		について
	7.	学校教育法等の一部改正について (報告)
	8.	旧大学寮(橄欖寮)の売却について(報告)
	9.	講義館屋上防水漏水対策工事の契約について
	10.	商標登録について
8月6日 (火)	1.	中高教員病気休暇取得に伴う代替非常勤講師(音楽科)の採用計画について
	2.	2019年度実験・実習系授業補助員(生活文化デザイン学科)の採用計画に
		ついて
	3.	2020年度大学教員特別研修休暇について
	4.	2020年度大学教員国内研修員の推薦について
	5.	宮城学院女子大学・大学院駐輪場利用規程の改正について
	6.	マルチメディア教室情報機器更新の契約について
	7.	学術情報館建設等委員会における検討状況について
9月3日 (火)	1.	2020年度事務職員採用計画について
	2.	宮城学院学業特待奨学金(プールボー奨学金)に関する
		規程の一部改正について
	3.	タンザニア サクラ女子中学卒業生の中高短期留学生受け入れについて
	4.	2019年度教職員永年勤続者の表彰について
	5.	令和元年人事院勧告について (報告)
	6.	令和2年度文部科学省概算要求について (報告)
9月17日 (火)	1.	中高専任教員(英語科)の退職について
	2.	宮城県最低賃金の改定に伴う学内対応について
	3.	東日本大震災により被災した学生生徒等に係る授業料等の減免に関する規
		程の一部改正について(こども園・中学校・高等学校)
	4.	中高改革の現状と将来展望について
	5.	民法の一部改正について(報告)
10月1日 (火)	1.	「経営情報」(現代ビジネス学科)担当専任教員の採用について
	2.	「流通システム」(現代ビジネス学科)担当専任教員の採用について
	3.	2020年度大学教員採用計画について

	4. 宮城学院女子大学教務センター規程の改正について
	5. 2019年度臨時事業計画の追加申請について
10月21日(月)	1. 専任事務職員の退職について
	2. 「英語教育学(TESOL)」担当教員採用人事について
	3. トルン第4高等学校(ポーランド)との「留学生の受け入れに関する国際
	教育提携書」締結について
	4. 宮城学院女子大学「大学学業特待生」にかかる選考内規の改正について
	5. 同一労働同一賃金への対応について
10月29日 (火)	1. 大学教員組合・副手組合への回答について
11月5日 (火)	1. 2020年度予算編成方針案について
	2. 大学副手の退職について
	3. 事務局人事について
	4. 2020年度事務職員採用計画について(再々募集)
	5. 2020年度受験生に対する入学検定料免除対象者の追加措置について
	6. 汚水貯留槽排水ポンプ交換修理工事の緊急手配について
11月12日 (火)	1. 就業規則等の一部改正について
11月19日(火)	1. 就業規則等の一部改正について(継続)
	2. 2019年台風第19号に係る授業料等減免の対応について
11月26日 (火)	1. 大学「臨床医学」(食品栄養学科)担当専任教員の採用について
	2. 大学「国際・異文化間ビジネスまたは多文化共生」(現代ビジネス学科)
	担当教員の採用について
	3. 大学「経営管理」(現代ビジネス学科)担当教員の採用について
	4. 大学「日本文学(中古文学)」(日本文学科)担当教員の採用について
	5. 大学「イギリス文学」(英文学科)担当教員の採用について
	6. 大学「教育実践」(教育学科)担当教員の採用について
	7. 2020年度大学教員採用計画について
	8. 大学研究ブランディング事業プロジェクト補助員の募集について
	9. 宮城学院女子大学学則の改定について
	10. 2020年度中学校高等学校受験生に対する入学検定料免除について
	11. 高等教育修学支援新制度への対応について
	12. 就業規則等の一部改正について(継続)
	13. 大学教員組合・副手組合への回答について
	14. 2019年度上半期資産運用状況について(報告)
12月10日 (火)	1. 中高専任教員(数学科)の退職について
	2. 2020年度中高専任教員採用計画について
	3. 2020年度中高契約教員採用計画について
	4. 2020年度こども園嘱託保育教諭採用計画について
	5. 2020年度事務局嘱託職員等の採用計画について
	6. 寄附行為の改正について
	7. 寄附行為施行細則の改正について
	8. 理事会の運営に関する規程について
	9. 宮城学院役員の報酬等に関する規程について
	10. 寄附行為施行細則に定める役職者の給与に関する規程について

	11 代と原丛へて文書(中で)マキレンフキレンフェンマ
	11. 貸与奨学金返済滞納者に対する対応について
	12. 高等教育修学支援新制度への対応について(継続)
	13. 大学教員組合・副手組合への回答について
12月24日 (火)	1. 1号特任教員(音楽科)の契約延長について
	2. 特命教員(英文学科)の委嘱について
	3. 2020年度大学教員「養護実践」(教育学科)の採用計画について
	4. 教務嘱託職員等の募集について
	5. 宮城学院女子大学学生寮規程の改正について
	6. 宮城学院女子大学図書館管理規程の改正について
	7. 宮城学院女子大学図書館資料除籍細則の改正について
	8. 宮城学院女子大学図書館利用規程の制定について
	9. 民法改正への対応(根保証限度額設定)について
	10. Windows7サポート終了に伴うPC他更新について
	11. 学費等未納者に対する対応について
	12. 研究ブランディング事業プロジェクト補助員の採用について
2020(令和 2)年	1. 2020年度中高教員人事計画について
1月14日(火)	
1月21日 (火)	1. 第3号基本金「宮城学院奨学基金」組入れ計画の変更について
	2. 2019年度補正予算(案) について
	3. 学術情報館設計者選定について
	4. 大学専任教員(教育学科)「保育内容(領域)」の採用について
	5. 2020年度事務局嘱託職員の契約更改について
	6. 2020年度教務嘱託職員の採用計画について
	7. 2020年度中高常勤講師(英語科)採用計画について
	8. 宮城学院女子大学教授会役員等選任規程の改正について
	9. 令和2年度(2020年度)予算政府案(私学関係予算)について
2月5日 (水)	1. 中高教務嘱託職員の採用計画について
	2. 青桜シャロン寮職員の採用計画について
	3. 同一労働同一賃金への対応について
2月18日 (火)	1. 専任事務職員(30歳以下・職務経験者)の採用について
	2. 大学特命教員(生活文化デザイン学科)の採用について
	3. 大学特命教員(教育学科)の採用について
	4. 2020年度教務嘱託職員(副手・助手)の採用について
	5. 2020年度こども園嘱託保育教諭等の契約更改について
	6. 施設アドバイザー (顧問) 契約の更改について
	7. 2020年度事務職員採用計画について(再募集)
2月25日 (火)	1. 2020年度事務嘱託職員(キリスト教センター)の採用について
	2. 2020年度専門職嘱託職員(施設課)の採用について
	3. 2020年度事務嘱託職員(中高事務室)の採用について
	4. 2020年度大学教務嘱託職員等の契約更改について
	5. 2020年度大学教員「学生相談室主任」(学生相談・特別支援センター)の
	採用計画について
	6. 宮城学院女子大学大学院学則の改定について
L	

	7. 宮城学院女子大学大学院研究科委員会規程の改定について
	8. 宮城学院女子大学大学院研究科長選考規程の改定について
	9. 宮城学院監事監査規程の改正について
	10. 宮城学院情報の公開及び開示に関する規程の制定について
2月28日(金)	1. 事務局人事について
3月3日 (火)	1. 2020年度事業計画 (案) について
	2. 2020年度予算(案) について
	3. 大学昇任人事について
	4. 専任事務職員の退職について
	5. 2020年度4月事務局人事について
	6. 大学特任教員(教育学科)「養護実践」の採用について
	7. 大学テニュア・トラック教員テニュア審査について
	8. 大学特命教員(教育学科)の採用について
	9. 大学特命教員の採用について
	10. 2020年度特命教員の委嘱について
	11. 2020年度特任・特命教員の契約更改について
	12. 2020年度大学教務嘱託職員の契約更改について
	13. 2020年度こども園嘱託保育教諭の採用について
	14. 2020年度こども園嘱託保育教諭の契約更改について
	15. 防災アドバイザー (顧問) の契約更改について
	16. 宮城学院女子大学学則の改定について
	17. 高等教育の修学支援新制度並びに私立高等学校授業料の実質無償化に伴う
	本学院奨学制度の2020年度運用について
	18. 宮城学院女子大学附属音楽教室室則の改正について
3月10日(火)	1. 2020年度事業計画 (案) について
	2. 2020年度予算(案) について
	3. 宮城学院女子大学学則の改定について
	4. 宮城学院監事監査規程の改正について
	5. 宮城学院情報の公開及び開示に関する規程の制定について
	6. 宮城学院資金運用管理規程の一部改正について
	7. 理事会運営体制について
	8. 2020年度中高専任教員(数学科)の採用について
	9. 2020年度中高常勤講師(数学科)の採用について
	10. 2020年度中高常勤講師(理科)の採用について
	11. 2020年度中高育休代替常勤講師(社会科)の採用について
	12. 2020年度中高教務嘱託職員の契約更改について
	13. 2020年度青桜シャロン寮寮職員の契約更改について
	14. 2020年度大学特任教員(日本文学科)「図書館情報学」の採用計画(再募
	集)について
	15. 2020年度大学新役員等について
3月17日 (火)	1. 2020年度大学特任教員(学生相談・特別支援センター)「学生相談室主任」
	の採用について
	2. 2020年度事務嘱託職員(キャリア支援課)の採用について

3月24日 (火)	1.	名誉教授称号の授与について
	2.	2020 年度中高執行体制について
	3.	2020 年度特任・特命教員の契約更改について
	4.	2020 年度生活文化デザイン学科授業補助員の契約更改について
	5.	2020 年度中高特任教員並びに常勤講師の契約更改について
	6.	2020 年度こども園産休代替嘱託保育教諭の採用計画について
	7.	宮城学院女子大学教育環境と人権を守るためのガイドライン及び宮城学
		院女子大学教育環境と人権を守るためのガイドライン運用細則の改正に
		ついて
	8.	中高組合春闘要求に対する回答について
	9.	青桜シャロン寮屋上及び屋根防水漏水対策工事の契約について
3月27日(金)	1.	2020 年度こども園嘱託保育教諭の採用について
	2.	2020 年度こども園産休代替嘱託保育教諭の採用計画について
	3.	2020 年度こども園非常勤保育教諭の採用計画について
	4.	2020年度中高契約教員(特任教員)の5年を超える契約更改について
	5.	2020年度中高スクールカウンセラーの契約更改及び時間数について
	6.	高等教育の修学支援新制度への対応について

(3) 評議員会の開催状況

開催年月日	議題
2019(令和元)年	1. 2018 年度事業報告 (案) について
5月28日 (火)	2. 2018年度決算(案)について
(定期)	
11月12日 (火)	1. 寄附行為第8条第1項第8号理事(評議員選出)の選任について
(定期)	2. 監事の選任について
12月17日 (火)	1. 寄附行為の改正について
(臨時)	2. 寄附行為施行細則の改正について
	3. 宮城学院役員の報酬等に関する規程について
2020(令和 2)年	1. 2019年度補正予算(案) について
1月28日 (火)	
(臨時)	
3月17日 (火)	1. 2020 年度事業計画 (案) について
(定期)	2. 2020年度予算(案)について

2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等

(1) 法人(理事会・評議員会を除く)

年 月 日	行 事 等		
2019(平成 31)年			
4月1日	新任教職員辞令交付式		
24 日	全学院教職員礼拝		
	新任教職員歓迎茶話会		
26 日	公認会計士監査		

年 月 日	行 事 等		
2019(令和元)年			
5月13日~14日	公認会計士監査		
	監事監査		
16 日	ランカスター神学校ランダル・ザッカマン先生来校		
17 日	教職員健康相談		
19 日	ホームカミングデー		
29 日	全学院教職員礼拝		
6月7日	公認会計士監査		
21 日	教職員健康相談		
26 日	全学院教職員礼拝		
28 日	教育基金運営委員会		
	奨学金委員会		
7月9日	公認会計士・常任理事・監事懇談会		
17 目	全学院教職員礼拝		
19 日	教職員健康相談		
8月9日	事務職員全体研修会		
13 日~17 日	一斉休暇		
9月18日	創立念礼拝・墓前礼拝		
	永年勤続者表彰式、永年勤続者を囲んでの茶話会		
26 日~27 日	公認会計士監査		
10月16日・18日	教職員健康診断		
17 日	全学院防災訓練		
18 日	教職員健康相談		
23 日	全学院教職員礼拝		
11月13日	全学院教職員礼拝		
15 日	教職員健康相談		
30 日	クリスマス・チャペルコンサート		
12月2日	クリスマス・イルミネーション点灯式		
4 日∼5 目	公認会計士監査		
6 日	宮城学院公開クリスマス礼拝		
15 日	宮城学院クリスマスマーケット		
20 日	教職員健康相談		
27 日	仕事納め		
28日~1月3日	冬期休業		
2020(令和 2)年			
1月4日	仕事始め		
	全学院新年礼拝		
24 日	教職員健康相談		
2月15日	ハートフルボランティア報告会		
19 日	全学院教職員礼拝		
21 日	教職員健康相談		
3月11日	大震災記念礼拝(中止)		

年 月 日	行 事 等
13 日	教職員健康相談
24 日	退職者辞令交付式
23 日~24 日	公認会計士監査

(2) 大学院・大学

年 月 日	行 事 等			
2019(平成 31)年				
4月4日	入学式			
5 日∼8 日	新入学生・編入学生・在学生ガイダンス			
9 日	前期授業開始			
18 日	学友会春季総会(2 校時休講)			
2019(令和元)年				
5月21日	新入生歓迎会			
25 日	大学後援会総会			
6月13日	キリスト教教育特別集会(3校時休講)			
30 日	オープンキャンパス			
7月13日	「音楽の世界」合同発表会			
20 日~21 日	小学生のためのサマーカレッジ			
8月4日	オープンキャンパス			
7 日	前期授業終了日			
8 日~10 日	補講			
13日~9月11日	夏季休業			
18日~9月9日	英文学科海外研修(イギリス)			
19 日~31 日	連続講義			
27 日	AO 入試(一次選考)			
9月1日	AO 入試(一次選考)結果通知			
11 日	AO 入試(二次選考)			
12 日	後期授業開始			
19 日	AO 入試 合格発表			
28 日	オープンキャンパス			
30 目	9月期卒業・修了者学位記授与式			
10月19日~20日	大学祭・オープンキャンパス			
26 日	第1回大学院入試			
29 日	第1回大学院入試合格発表			
11月15日	学友会秋季総会(2 校時休講)			
16 日	推薦入試・編入学・TOEIC編入学・特別入試、転学科試験			
21 日	推薦入試・編入学・TOEIC編入学・特別入試、転学科試験合格発表			
12月7日	オープンキャンパス			
12 日	クリスマス礼拝			
24 日	年内授業終了日			
26 日~1 月 4 日	冬季休業			

年 月 日	行 事 等
2020(令和 2)年	
1月6日	授業開始日
18 日~19 日	大学入試センター試験
29 日	後期授業終了日
30 日~2 月 1 日	補講
2月3日	音楽科専門試験(一般入試(A日程前期)・センター試験利用入試(A日程))
4 日	一般入試(A 日程前期)
3日~4月4日	春季休業
5 日~15 日	連続講義
10 日	一般入試(A 日程前期)、センター試験利用入試(A 日程)合格発表
20 日	一般入試(A日程後期)、特別入試
22 日~29 日	教育学科幼児教育専攻海外研修 (スウェーデン)
26 日	一般入試(A日程後期)、特別入試合格発表
27 日	第2回大学院入試
29 日	第2回大学院入試合格発表
3月9日	一般入試(B日程)、音楽科専門試験(センター試験利用入試(B日程))
12 日	一般入試(B日程)、センター試験利用入試(B日程)合格発表
17 日	卒業・修了礼拝、卒業パーティー(中止)
20 日	学位記授与式
23 日	音楽科専門試験(センター試験利用入試(C 日程))
24 日	センター試験利用入試(C日程)合格発表
25 日	オープンキャンパス(WEB 開催)

(3) 中学校高等学校

(3) 个子仪问寺子仪	
年 月 日	行 事 等
2019(平成 31)年	
4月8日	入学式
	始業式
9 日	中学1年オリエンテーション
15 日	イースター礼拝
20 日	PTA 総会
2019(令和元)年	
5月18日	運動会
22 日~28 日	キリスト教教育週間
6月1日~3日	宮城県高校総体
8 日~10 日	仙台市中学総体
22 日	中学校学校説明会
7月6日	中学校オープンキャンパス
10 日~12 日	中学1年リトリートキャンプ
20 日	終業
21 日~8 月 25 日	夏期休業
27 日	高校オープンキャンパス

8月26日 始業 高校1・2年スタディサポート 文化祭 9月13日 中学校創立記念行事 創立記念礼拝 創立記念礼拝 10月1日 後期始業 10月1日 後期始業 中学3 年校外研修旅行 中学校学校説明会 中学校仙台市為人大会 高等学校学校説明会 高等学校学校説明会 高等学校学校説明会 高等学校学校説明会 高等学校学校説明会 高等学校学校説明会 高等学校本院研育 11月1日 京教学 2年校外研修旅行 11月13日 中学校高等学校入試対策講座 12月14日 クリスマス礼拝 終業 21日~1月8日 夕リスマス礼拝 8業 21日~1月7日 中学校入学試験 1月7日 中学校入学試験 15日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校人学試験 16日 高等学校入学試験 16日 高等学校文学業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 16年生オリエンテーション	年 月 日	行 事 等			
31日~9月1日 文化祭 9月13日 中学校創立記念行事 19日 創立記念礼拝 10月1日 後期始業 2日~4日 中学 3年校外研修旅行 12日~13日 中学校会校設明会 12日~13日 中学校创造市新人大会 19日 高等学校学校説明会 24日 高等学校之学校説明会 28日~11月1日 収穫感謝礼拝 中学校高等学校入試対策講座 クリスマス礼拝 20日 終業 21日~1月8日 夕リスマス礼拝 20日 (令和2)年 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験合格発表 9日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校卒業証書授与式 19日 終業式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	8月26日	始業			
9月13日 中学校創立記念行事 19日 創立記念礼拝 前期終業 6日 10月1日 後期始業 2日~4日 中学 3年校外研修旅行 12日 中学校型校説明会 12日~13日 中学校仙市新人大会 19日 高等学校文ポーツ大会 24日 高校 2年校外研修旅行 11月13日 収穫感謝礼拝 16日 中学校高等学校入試対策講座 12月14日 クリスマス礼拝 20日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020(令和2)年 中学校入学試験 15日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B B 程 9日 高等学校入学試験 B B 程 9日 高等学校入学試験 B P 程 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション		高校1・2年スタディサポート			
19 日 創立記念礼拝 前期終業 10 月 1 日 後期始業 2 日~4 日 中学 3 年校外研修旅行 12 日 中学校学校説明会 12 日~13 日 中学校仙台市新人大会 19 日 高等学校学校説明会 24 日 高等学校学校説明会 28 日~11 月 1 日 成種感謝礼拝 16 日 中学校高等学校入試対策講座 17 月 14 日 クリスマス礼拝 20 日 終業 21 日~1 月 8 日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 1月 7 日 中学校人学試験 8 日 中学校人学試験 15 日 高等学校推薦入学試験 A 日程 6 日 高等学校入学試験 A 日程 6 日 高等学校入学試験 B 日程 9 日 高等学校入学試験合格発表 3 月 2 日 高等学校文学試験合格発表 3 月 2 日 高等学校卒業証書授与式 19 日 終業式 19 日 終業式 19 日 終業式	31日~9月1日	文化祭			
26 目 前期終業 10月1日 後期始業 2日~4日 中学3年校外研修旅行 12日 中学校学校説明会 12日~13日 中学校仙台市新人大会 19日 高等学校学校説明会 24日 高等学校Aボーツ大会 28日~11月1日 収穫感謝礼拝 16日 中学校高等学校入試対策講座 12月14日 クリスマス礼拝 20日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020 (令和2)年 1月7日 1月7日 中学校入学試験合格発表 9日 病等学校推薦入学試験合格発表 2月4日 高等学校大学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B B程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	9月13日	中学校創立記念行事			
10月1日 後期始業 2日~4日 中学な学校説明会 12日 中学校学校説明会 12日~13日 中学校仙台市新人大会 19日 高等学校マボデッ大会 28日~11月1日 高校 2年校外研修旅行 11月13日 収穫感謝礼拝 16日 中学校高等学校入試対策講座 12月14日 クリスマス礼拝 20日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020(令和2)年 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験 15日 高等学校性薦入学試験 16日 高等学校性薦入学試験 16日 高等学校性薦入学試験 16日 高等学校大学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 6日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校本業証書授与式 19日 終業式 19日 終業式	19 日	創立記念礼拝			
2 日~4 日 中学 核 於 新 修 旅 行 12 日 中学校学校説明会 12 日~13 日 中学校仙台市新人大会 19 日 高等学校学校説明会 24 日 高等学校スポーツ大会 28 日~11 月 1 目 高校 2 年校外研修旅行 11 月 13 日 収穫感謝礼秤 中学校高等学校入試対策講座 12 月 14 日 クリスマス礼拝 20 日 終業 21 日~1 月 8 日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 1月 7 日 1月 7 日 中学校入学試験 8 日 中学校入学試験 9 日 始業 15 日 高等学校推薦入学試験 16 日 高等学校入学試験 A 日程 6 日 高等学校入学試験 B 日程 9 日 高等学校入学試験 A 日程 6 日 高等学校入学試験 B 日程 9 日 高等学校入学試験 B 日程 9 日 高等学校文業証書授与式 18 日 中学校卒業証書授与式 19 日 終業式 24 日 新中学 1 年生 オリエンテーション	26 日	前期終業			
12 日 中学校学校説明会 12 日~13 日 中学校仙台市新人大会 19 日 高等学校学校説明会 24 日 高等学校スポーツ大会 28 日~11 月 1 日 高校 2 年校外研修旅行 11 月 13 日 収穫感謝礼拝 16 日 中学校高等学校入試対策講座 12 月 14 日 クリスマス礼拝 20 日 終業 21 日~1 月 8 日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 中学校入学試験 1月 7 日 中学校入学試験合格発表 9 日 始業 15 日 高等学校推薦入学試験合格発表 2月 4 日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9 日 高等学校入学試験 B 日程 9 日 高等学校入学試験 B 日程 9 日 高等学校卒業証書授与式 18 日 中学校卒業証書授与式 19 日 終業式 24 日 新中学 1 年生オリエンテーション	10月1日	後期始業			
12 日~13 日 中学校仙台市新人大会 19 日 高等学校学校説明会 24 日 高等学校文校説明会 28 日~11 月 1 日 高校 2 年校外研修旅行 11 月 13 日 収穫感謝礼拝 16 日 中学校高等学校入試対策講座 12 月 14 日 クリスマス礼拝 20 日 終業 21 日~1 月 8 日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 1月 7 日 1月 7 日 中学校入学試験 8 日 中学校入学試験合格発表 9 日 高等学校推薦入学試験 16 日 高等学校推薦入学試験合格発表 2 月 4 日 高等学校入学試験合格発表 3 月 2 日 高等学校入学試験合格発表 3 月 2 日 高等学校文業証書授与式 19 日 終業式 24 日 新中学1 年生オリエンテーション	2 日∼4 日	中学3年校外研修旅行			
19日 高等学校学校説明会 高等学校スポーツ大会 高校2年校外研修旅行 11月13日 収穫感謝礼拝 16日 中学校高等学校入試対策講座 12月14日 クリスマス礼拝 20日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020 (令和2)年 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験合格発表 9日 始業 15日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 19日 終業式 3月1日 終業式 3月1日 高等学校卒業証書授与式 9日 高等学校卒業証書授与式	12 日	中学校学校説明会			
24 日 高等学校スポーツ大会 28 日~11月1日 高校2年校外研修旅行 11月13日 収穫感謝礼拝 16 日 中学校高等学校入試対策講座 12月14日 クリスマス礼拝 20 日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020 (令和2)年 中学校入学試験 1月7日 中学校入学試験合格発表 9日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校推薦入学試験合格発表 2月4日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	12 日~13 日	中学校仙台市新人大会			
28日~11月1日 高校2年校外研修旅行 11月13日 収穫感謝礼拝 16日 中学校高等学校入試対策講座 12月14日 クリスマス礼拝 20日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 1月7日 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験合格発表 9日 始業 15日 高等学校推薦入学試験合格発表 2月4日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	19 日	高等学校学校説明会			
11月13日 収穫感謝礼拝 16日 中学校高等学校入試対策講座 12月14日 クリスマス礼拝 20日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 1月7日 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験合格発表 9日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	24 日	高等学校スポーツ大会			
12月14日	28日~11月1日	高校2年校外研修旅行			
12月14日 クリスマス礼拝 20日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 中学校入学試験 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験合格発表 9日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	11月13日	収穫感謝礼拝			
20日 終業 21日~1月8日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 中学校入学試験 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験合格発表 9日 始業 15日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学 1 年生オリエンテーション	16 日	中学校高等学校入試対策講座			
21日~1月8日 冬期休業 2020 (令和 2) 年 1月7日 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験合格発表 9日 始業 15日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校入学試験合格発表 2月4日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	12月14日	クリスマス礼拝			
2020 (令和 2) 年 1月7日 中学校入学試験 8日 中学校入学試験合格発表 9日 始業 15日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校推薦入学試験合格発表 2月4日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	20 日	終業			
1月7日中学校入学試験8日中学校入学試験合格発表9日始業15日高等学校推薦入学試験16日高等学校推薦入学試験合格発表2月4日高等学校入学試験 A 日程6日高等学校入学試験 B 日程9日高等学校入学試験合格発表3月2日高等学校卒業証書授与式18日中学校卒業証書授与式19日終業式24日新中学1年生オリエンテーション	21日~1月8日	冬期休業			
8日 中学校入学試験合格発表 9日 始業 15日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校入学試験合格発表 2月4日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	2020(令和 2)年				
9日始業15日高等学校推薦入学試験16日高等学校推薦入学試験合格発表2月4日高等学校入学試験 A 日程6日高等学校入学試験 B 日程9日高等学校入学試験合格発表3月2日高等学校卒業証書授与式18日中学校卒業証書授与式19日終業式24日新中学1年生オリエンテーション	1月7日	中学校入学試験			
15日 高等学校推薦入学試験 16日 高等学校推薦入学試験合格発表 2月4日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	8 日	中学校入学試験合格発表			
16日 高等学校推薦入学試験合格発表 2月4日 高等学校入学試験A日程 6日 高等学校入学試験B日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	9 日	始業			
2月4日 高等学校入学試験 A 日程 6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	15 日	高等学校推薦入学試験			
6日 高等学校入学試験 B 日程 9日 高等学校入学試験合格発表 3月2日 高等学校卒業証書授与式 18日 中学校卒業証書授与式 19日 終業式 24日 新中学1年生オリエンテーション	16 日	高等学校推薦入学試験合格発表			
9日高等学校入学試験合格発表3月2日高等学校卒業証書授与式18日中学校卒業証書授与式19日終業式24日新中学1年生オリエンテーション	2月4日	高等学校入学試験 A 日程			
3月2日高等学校卒業証書授与式18日中学校卒業証書授与式19日終業式24日新中学1年生オリエンテーション	6 日	高等学校入学試験 B 日程			
18日中学校卒業証書授与式19日終業式24日新中学1年生オリエンテーション	9 日	高等学校入学試験合格発表			
19日終業式24日新中学1年生オリエンテーション	3月2日	高等学校卒業証書授与式			
24日 新中学1年生オリエンテーション	18 日	中学校卒業証書授与式			
	19 日	終業式			
der what the state of the state	24 日	新中学1年生オリエンテーション			
25 日 新高校 1 年生オリエンテーション	25 日	新高校1年生オリエンテーション			

(4) 大学附属認定こども園「森のこども園」

年 月 日	行 事 等
2019(平成 31)年	
4月6日	入園式
8日	第1学期始業式
23 日	イースター礼拝
2019(令和元)年	
5月14日	親子ウォーキング(3、5歳児)
5月16日	親子ウォーキング(4 歳児)

年 月 日	行 事 等		
6月11日	花の日礼拝		
7月5日	七夕		
18 日	第1学期終業式		
19 日~20 日	5歳児サマーキャンプ		
19日~8月24日	夏期休業		
8月26日	第 2 学期始業式		
9月6日	創立記念礼拝		
28 日	運動会		
10月8日	秋の遠足		
15 日	1号認定入園説明会		
26 日	2・3 号認定入園説明会		
11月1日	入園願書受付		
12 日	収穫感謝礼拝		
20 日	新入園児オリエンテーション		
12月11日	クリスマス祝会(1 グループ)		
12 日	クリスマス祝会(2 グループ)		
21 日	クリスマス礼拝		
	第 2 学期終業式		
23 日~1 月 7 日	冬期休業		
2020(令和 2)年			
1月8日	第 3 学期始業式		
2月3日	豆まき		
3月3日	修了礼拝(中止)		
4 日	お別れ会(中止)		
14 日	修了式		
19 日	第3学期終業式(中止)		
	進級オリエンテーション(中止)		
23 日~	春期休業		

3. 補助金の状況

○私立大学等経常費補助金<日本私立学校振興·共済事業団> (令和元年度)

学校別		区 分	補助事業に要する経費(円)	補助金額(円)
	専	任 教 員 等 給 与 費	1,094,992,000	107,224,000
	内	ア. 専任教員等給与費	1,023,245,000	95,241,000
	訳	イ. 私立大学退職金財団掛金	71,747,000	11,983,000
	峥	任 職 員 等 給 与 費	473,730,000	49,733,000
	内	ア. 専任職員給与費	441,170,000	44,335,000
大学	訳	イ. 私立大学退職金財団掛金	32,560,000	5,398,000
	非	常勤教員給与費	188,780,000	6,342,000
	教	職員福利厚生費	123,767,000	18,716,000
	教	育 研 究 経 常 費	1,012,804,000	121,889,000
	厚	生 補 導 費	38,600,000	1,815,000
	研	究 旅 費	20,247,000	1,162,000
合		計	2,952,920,000	306,881,000

○特別補助 (経常費補助金) 内訳表

	項目	補助金額(円)
Ι	成長力強化に貢献する質の高い教育	2,100,000
	地方に貢献する大学等への支援	1,800,000
	被災地の復興支援	300,000
П	社会人の組織的な受入れ	0
Ш	大学等の国際交流の基盤整備	0
IV	大学院等の機能の高度化	24,000,000
	私立大学研究ブランディング事業 (継続分)	24,000,000
V	経営強化等支援	0
VI	授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	19,949,000
	授業料減免事業等支援	17,370,000
	卓越した学生に対する授業料減免等	669,000
	特色のある経済的支援方策	1,910,000
VII	東日本大震災からの復興支援	0
VIII	台風第 19 号、第 20 号及び第 21 号からの復興支援	2,233,000
	教育研究環境復旧費(台風第 19 号、第 20 号及び第 21 号)	933,000
	授業料減免事業等支援(台風第 19 号、第 20 号及び第 21 号)	1,300,000
IX	私立大学等改革総合支援事業	8,000,000
	タイプ1 特色ある教育の展開	8,000,000
	合計	56,282,000

○私立学校運営費補助金<県補助>(令和元年度)

	内訳			補助対象経費	補助金額	
	人件費(円)	経費 (円)	設備費 (円)	計 (円)	(円)	(円)
高等学校	325,843,675	155,245,038	13,527,817	494,616,530	247,308,265	174,021,000
中学校	175,525,814	73,079,126	1,158,222	249,763,162	124,881,581	52,537,000
こども園	107,099,432	25,653,135	12,170	132,764,737	66,382,369	1,008,000
合計	608,468,921	253,977,299	14,698,209	877,144,429		227,566,000

○私立学校教育改革推進特別経費補助金<県補助>(令和元年度)

区分	補 助 対	₩₩₩₩ (m)	
学校別	人件費 (円)	補助金額(円)	
高等学校	325,843,675	175,254,918	600,000
中学校	175,525,814	76,585,526	600,000
合計	501,369,489	251,840,444	1,200,000

○仙台市私立学校振興補助金<市補助>(令和元年度)

区分		補助対	象 経 費		
学校別	図書購入費 (円)	教材教具 購入費 (円)	学校管理用 備品購入費 (円)	計 (円)	補助金額(円)
高等学校	301,930	852,820	1,075,680	2,230,430	2,200,000
中学校	310,300	0	0	310,000	300,400

○子ども・子育て支援制度 教育・保育給付費<在園児所在市町村補助>(令和元年度)

事 業 名 称	補助金額 (円)
こども園の運営に係る補助	113,271,262

○認定こども園運営費補助金<市補助>(令和元年度)

事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
こども園の運営に係る補助	1,323,667	1,300,000

○保育士等就労スタートアップ事業補助金<市補助> (令和元年度)

事業の内容	補助金額 (円)
保育施設等に従事する若手職員の処遇改善に係る補助	315,442

○災害対応備蓄推進事業費助成<市補助>(令和元年度)

事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額(円)
非常食の購入に係る補助	31,516	28,700

○仙台市新型コロナウイルス感染症対策補助金<市補助>(令和元年度)

事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額 (円)
感染症対策物品の購入に係る補助	67,334	67,334

○新型コロナウイルス感染症対策臨時休業時特別開所支援事業補助金<市補助>(令和元年度)

事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額 (円)
小学校の臨時休業に伴う児童クラブの特別開所に係る補助	30,101	30,101

○私立保育所等助成<市補助>(令和元年度)

事 業 名 称	補助金額 (円)
栄養士・看護師雇用助成	274,800
増員調理員助成	1,388,400
増員保育士等助成	3,564,000
障害児等保育助成	1,400,000
合計	6,627,200

○病原性大腸菌対策関連消耗品購入及び病原性大腸菌対策検便費助成<市補助>(令和元年度)

事 業 名 称	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
病原性大腸菌対策関連消耗品購入助成	89,872	69,750
病原性大腸菌対策検便費助成		37,000
合計	89,872	106,750

○預かり保育(1号認定)<市補助>(令和元年度)

事 業 名 称	補助対象経費(円)	補助金額 (円)
預かり保育推進事業補助金	9 996 106	622,500
仙台市一時預かり事業(幼稚園型)補助金	2,286,106	1,408,520
合計	2,286,106	2,031,020

○延長保育事業費補助金(2号認定)<市補助>(令和元年度)

事 業 名 称	補助対象経費(円)	補助金額 (円)
延長保育	4,181,292	2,186,000

○一時預かり事業費補助金<市補助> (令和元年度)

事 業 名 称	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
一時預かり	1,384,715	637,000

○地域子育て支援事業補助金(広場事業) < 市補助 > (令和元年度)

事 業 名 称	補助対象経費(円)	補助金額(円)
子育て支援室	1,503,765	1,500,000

○放課後児童健全育成事業補助金<市補助>(令和元年度)

事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額(円)
宮城学院児童クラブ「森の家」	5,123,577	1,134,000

○結核定期健康診断補助金<市補助>(令和元年度)

事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額 (円)
結核定期健康診断	166,320	110,800

○私立高等学校授業料軽減事業補助金<県補助>(令和元年度)

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額 (円)
高等学校	入学金・授業料・施設設備資金・教育 充実資金免除 33 名分	1,986,780	1,615,000

○私立高等学校授業料軽減特別事業補助金<県補助>(令和元年度)

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高等学校	入学金・授業料・施設設備資金・教育	0.505.154	
同守子仪	充実資金免除(30名分)	9,797,154	9,797,000
由 出 出 出 出	入学金・授業料・施設設備資金・教育	2 20 6 1 4 1	9 906 000
中学校	充実資金免除(9名分)	3,206,141	3,206,000
こども園	保育料・特定負担額免除(3名分)	388,947	194,000

○理科教育設備整備費等補助金

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
中高共通	顕微鏡、質量測定用具等	1,901,880	948,000

〇私立大学等研究設備整備費等補助金(私立高等学校等 ICT 教育設備整備推進事業費)

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額 (円)
高校	生徒用パソコン、Wi-Fi 認証装置等	13,499,748	6,287,000

○科学研究費助成事業<文部科学省・日本学術振興会補助>(令和元年度)

学校別	研究代表者	研究区分		補助金額(円)	補助金額 (円)
				(直接経費)	(間接経費)
大 学	遊佐 典昭	基盤研究(B)	継続	2,300,000	690,000
	鈴木 雅之	基盤研究(C)	継続	1,100,000	330,000
	戸野塚 厚子	基盤研究(C)	継続	1,000,000	300,000
	河津 基	基盤研究(C)	継続	900,000	270,000
	後藤 知子	基盤研究(C)	継続	800,000	240,000
	木口 寛久	基盤研究 (C)	継続	800,000	240,000
	太田 峰夫	基盤研究 (C)	継続	800,000	240,000
	大橋 智樹	基盤研究 (C)	継続	650,000	195,000
	八木 祐子	基盤研究 (C)	継続	500,000	150,000
	磯部 裕子	基盤研究 (C)	継続	500,000	150,000
	大久保 尚子	基盤研究 (C)	継続	300,000	90,000
	松本 晴子	基盤研究 (C)	継続	200,000	60,000
	松原 弘子	若手研究	継続	1,000,000	300,000
	木村 春美	若手研究	継続	600,000	180,000
	藤田 嘉代子	若手研究	継続	600,000	180,000
	遠藤 みどり	特別研究員奨励費※1	継続	400,000	120,000
	吉村 典子	基盤研究 (C)	新規	1,400,000	420,000
	厳爽	基盤研究 (C)	新規	1,200,000	360,000
	西浦 和樹	基盤研究 (C)	新規	800,000	240,000
	平川 新	基盤研究 (C)	新規	700,000	210,000
	澤邉 裕子	基盤研究 (C)	新規	400,000	120,000
	森 康浩	基盤研究 (C)	新規	370,000	111,000
	足立 智昭	基盤研究 (C)	新規	300,000	90,000
	木曽 恵子	特別研究員奨励費※1	新規	700,000	210,000
		合計		18,320,000	5,496,000

※1 キリスト教文化研究所 客員研究員・日本学術振興会 特別研究員

4. 入学志願者、合格者、入学者数

(2019年5月1日 学校基本調査)

				入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大	修		英語・英米文学専攻	4	2	1	1
学	\pm	1 本利	日本語・日本文学専攻	4	1	1	1
院	課	人文科学研究科	人間文化学専攻	4	1	1	1
	程		生活文化デザイン学専攻	4	1	1	1
		健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	5	5	4
		大学院	合計	20	10	9	8

			入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	250	189	109
学	教育学部	教育学科幼児教育専攻	90	235	164	103
		教育学科児童教育専攻	50	185	144	60
		教育学科健康教育専攻	30	95	58	36
	生活科学部	食品栄養学科	100	274	188	105
		生活文化デザイン学科	60	120	117	72
	学芸学部	英文学科	70	221	170	92
		日本文学科	100	232	180	114
		人間文化学科	70	153	151	82
		音楽科	25	32	32	26
		心理行動科学科	60	196	143	70
	大学合計		750	1,993	1,536	869
	3 年	F 次編入学	_	6	2	0

	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
高 等 学 校	260	812	736	140
中 学 校	160	74	71	63

^{※「5.} 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児数」(4ページ)の1年生の数は在籍者数(休学者・留年者・留学者・再入学者等を含む数)となっており、本データの入学者数と同数ではない。

5. 寮生数

(2019年5月1日現在)

さくら寮	青桜シャロン寮	合計
大学 159 名	高校 14 名	173名

6. 2019 年度就職内定状況

(2020年5月1日現在)

学部	学科	卒業 学生数 (A)	求職者数 (B)	就職 内定者数 (C)	内定率 (C) / (B)
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	88	88	86	97.7%
教育学部	教育学科 幼児教育専攻	84	82	81	98.8%
	教育学科 児童教育専攻	50	50	50	100.0%
	教育学科 健康教育専攻	35	29	28	96.6%
生活科学部	食品栄養学科	96	93	88	94.6%
	生活文化デザイン学科	63	61	57	93.4%
学芸学部	英文学科	59	53	50	94.3%
	日本文学科	100	98	91	92.9%
	人間文化学科	57	52	50	96.2%
	音楽科	18	13	13	100.0%
	国際文化学科	5	3	3	100.0%
	心理行動科学科	61	54	54	100.0%
	合計	716	676	651	96.3%